

調查結果

◇ 調査結果の集計・分析について

回答者全体の集計・分析のほか、設問によって、「若年層（39歳以下）とそれ以外（40歳以上）」、「就労していない子どもがいる人とそれ以外」、「結婚の状況」、「就業の状況」で集計・分析を行った。

なお、「地域別」の集計・分析では、回答の傾向に特段の差が見られなかったため、掲載していない。

◇ 調査結果のポイント

- 働くことへの女性の意欲は非常に高い。
- 多様な働き方や、仕事と家庭の両立に対するニーズが高い。
- 夫婦の家事・育児の分担など、固定的役割分担意識が根強いこともうかがえる。

◆ 働き方のニーズ等

- ・ 今後の就業予定では、働く希望を持つ人が9割を超えている。
- ・ 働き続ける理由は、経済的理由を挙げている人が7割以上と、圧倒的に多い。
- ・ 若年層（39歳以下）では、「必要な時に休める」「子どもの預け先がある」など、仕事と家庭、育児の両立に対するニーズも高い。
- ・ 再就職に当たっての勤務形態の希望は、39歳以下ではパートタイムが多く、40歳以上では正社員でフルタイム勤務が多い。

◆ 離職・復職に対する考え方

- ・ 離職した人の約5割が「家事・育児に専念するため自発的に離職」しており、離職したことについては、約3分の2の人が「やめて良かった」と納得している。
- ・ 「夫の勤務地や転勤のため」、やむなく離職している人も多い。
- ・ 離職した人の約9割が、再び働くことを希望している。

◆ 仕事と家庭の両立

- ・ 出産後・子育て中も、働き続けたいと希望している人が約7割で、そのうち約4割の人が、勤務時間等の条件を変えて働くことを希望している。
- ・ 両立支援は、働きやすい職場環境づくりと、保育環境の充実に対するニーズが高い。

◆ 夫婦の家事・育児の分担の状況

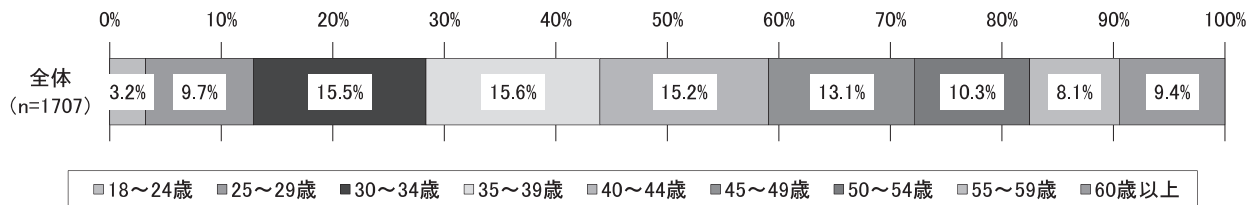
- ・ 家事も育児も、「妻と夫が平等に分担している」は約2割であり、「妻のみ」又は「妻主体」で行なっていると考えている人は約8割となっている。

I 回答者の概要

回答者の「年齢」「居住地」「結婚の状況」「同居家族の状況」は以下のとおり。

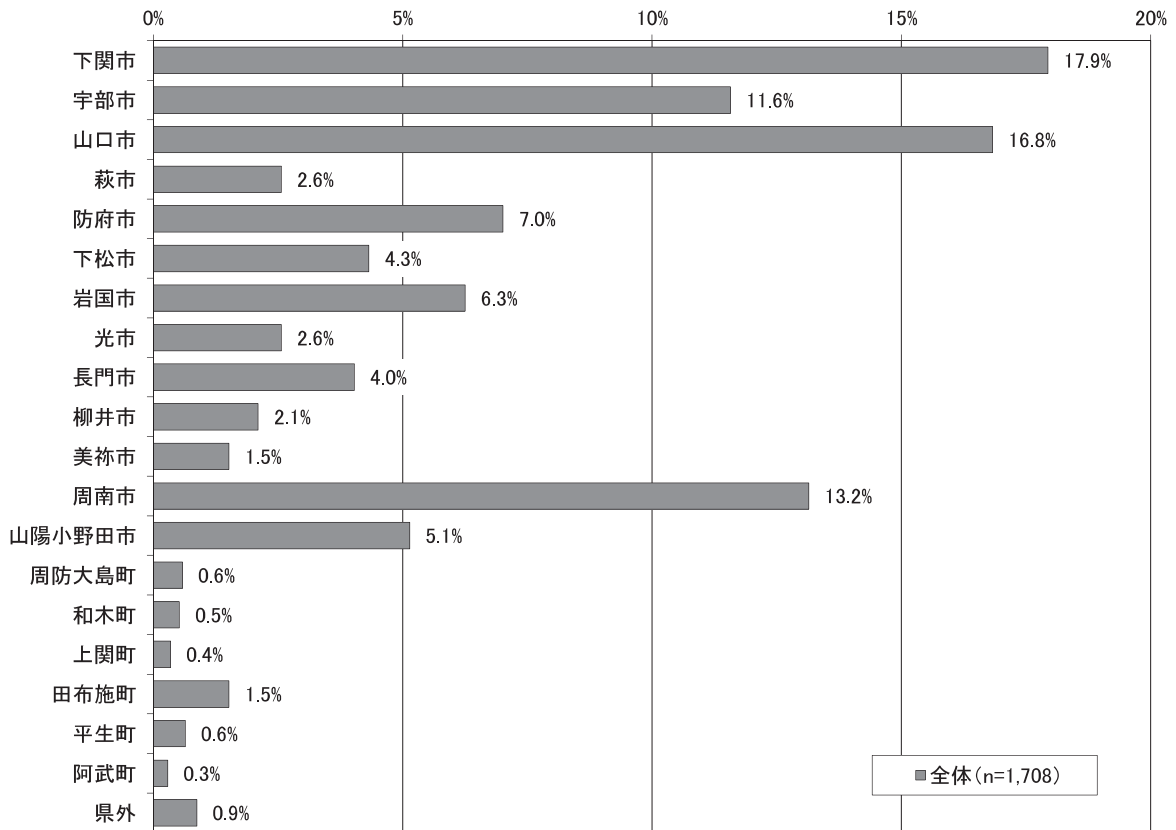
1 年齢

(図 I - 1) 回答者の年齢<全体> ※「無回答」を除く

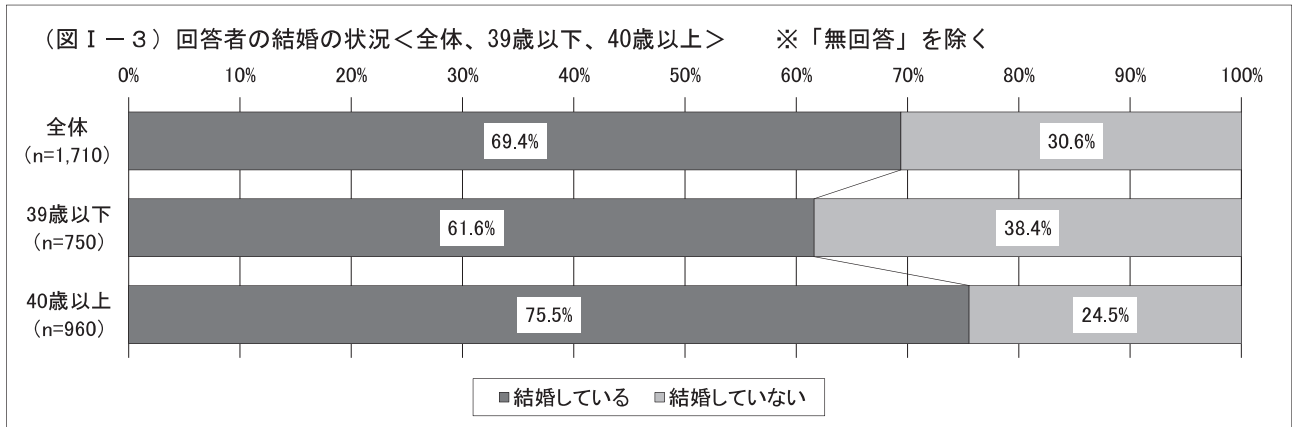


2 居住地

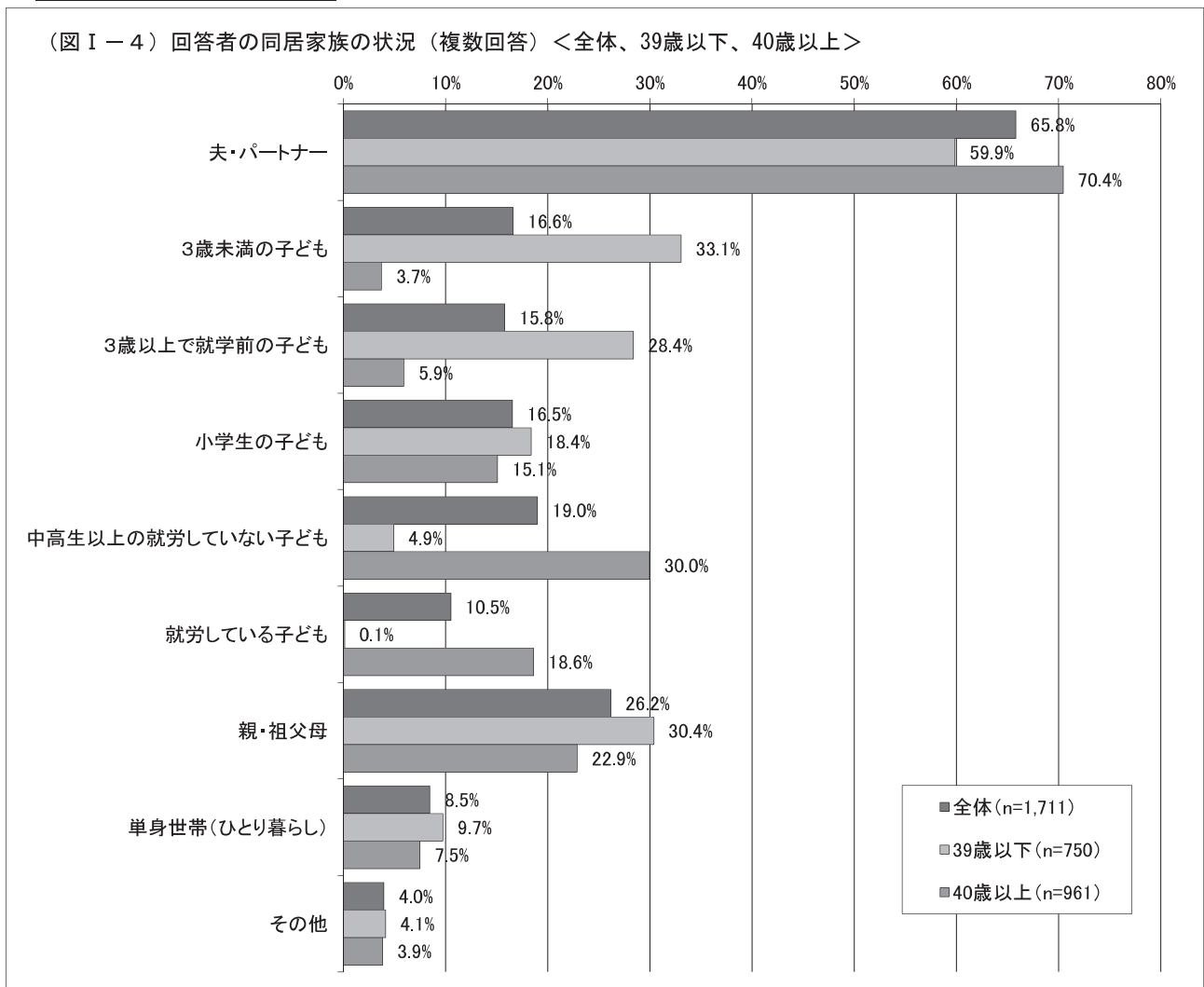
(図 I - 2) 回答者の居住地<全体> ※「無回答」を除く



3 結婚の状況



4 同居家族の状況

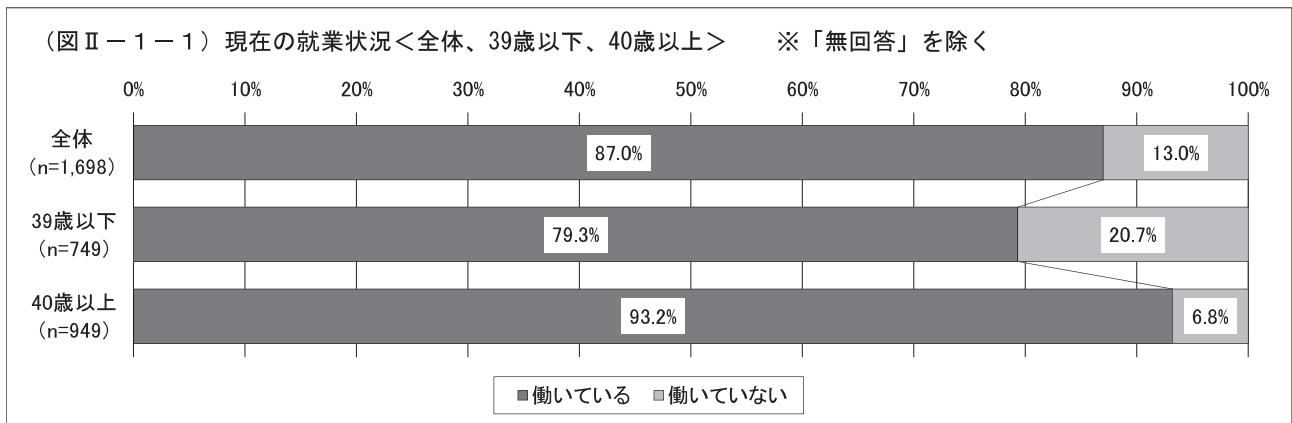


Ⅱ 就業等の状況・意識について

1 現在の就業状況

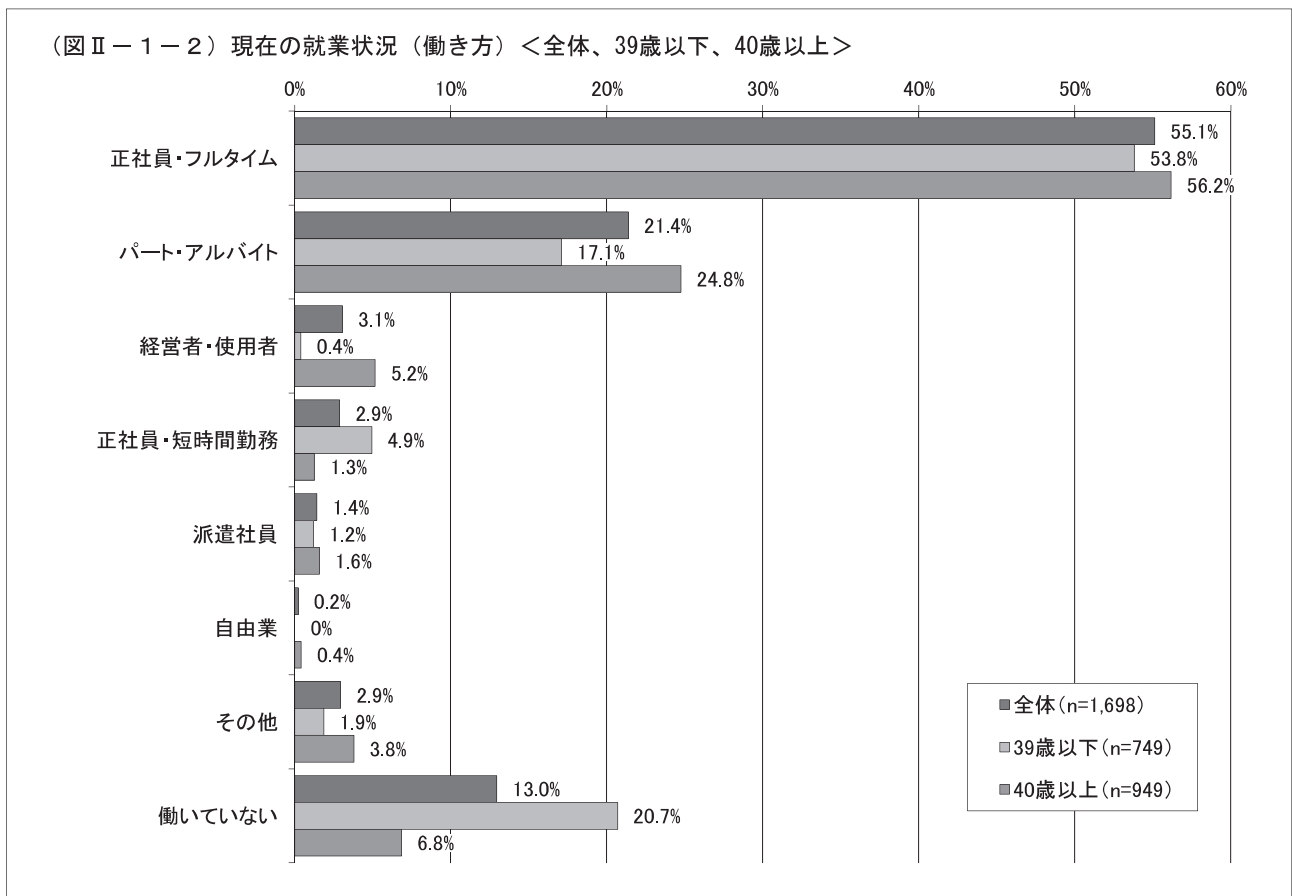
現在の就業状況は、回答者全体では、「働いている」(87.0%)、「働いていない」(13.0%)となっている。

年齢別では、39歳以下は、「働いている」(79.3%)、「働いていない」(20.7%)になっているのに対して、40歳以上は、「働いている」(93.2%)、「働いていない」(6.8%)となっており、就業状況に大きな差がある。



働き方は、いずれの区分も「正社員・フルタイム」が最も多く、回答者全体で55.1%、39歳以下で53.8%、40歳以上で56.2%となっている。

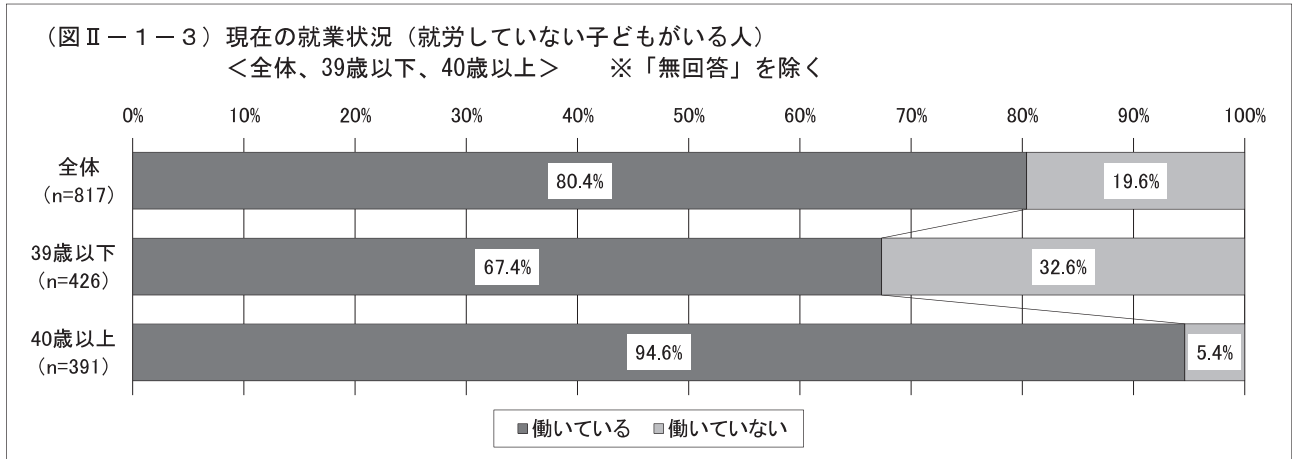
次いで、「パート・アルバイト」が多く、回答者全体で21.4%、39歳以下で17.1%、40歳以上で24.8%となっている。



また、回答者のうち、「就労していない子どもがいる」人の就業状況は、全体では、「働いている」(80.4%)、「働いていない」(19.6%)となっている。

年齢別では、39歳以下は、「働いている」(67.4%)、「働いていない」(32.6%)となっている。

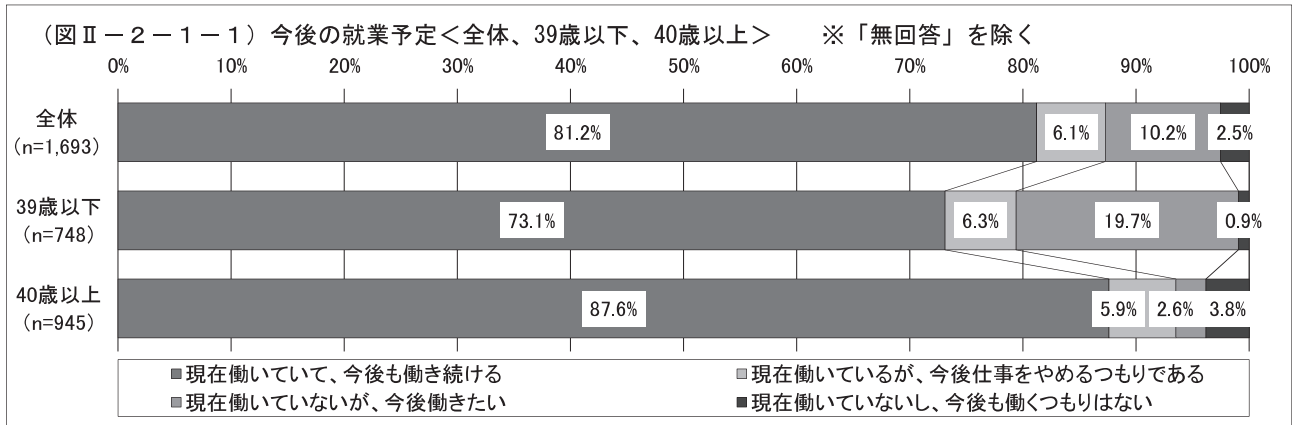
40歳以上は、「働いている」(94.6%)、「働いていない」(5.4%)となっている。



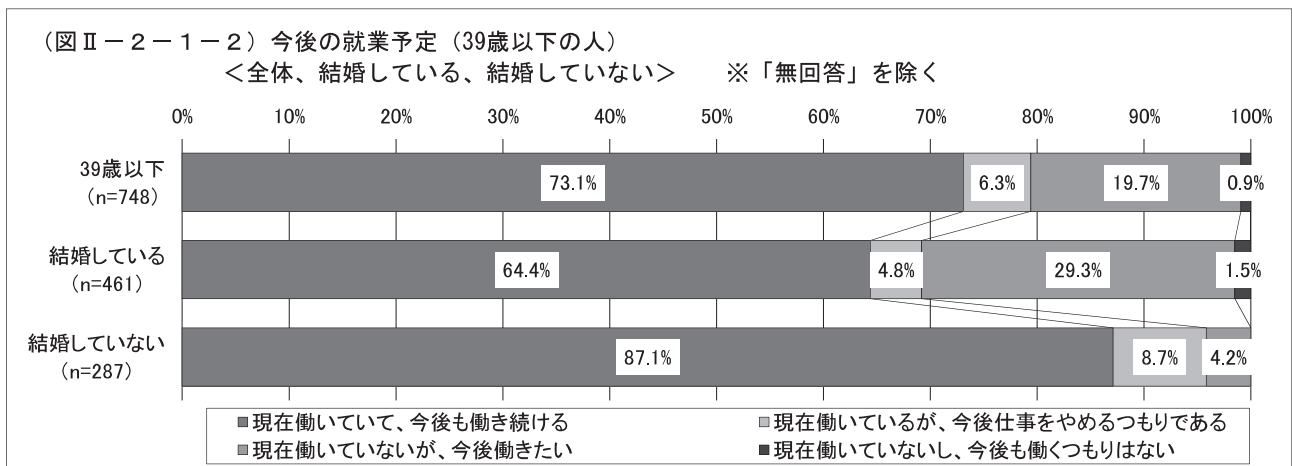
2-1 今後の就業予定

「現在働いていて、今後も働き続ける」が最も多く、回答者全体で81.2%、39歳以下で73.1%、40歳以上で87.6%となっている。

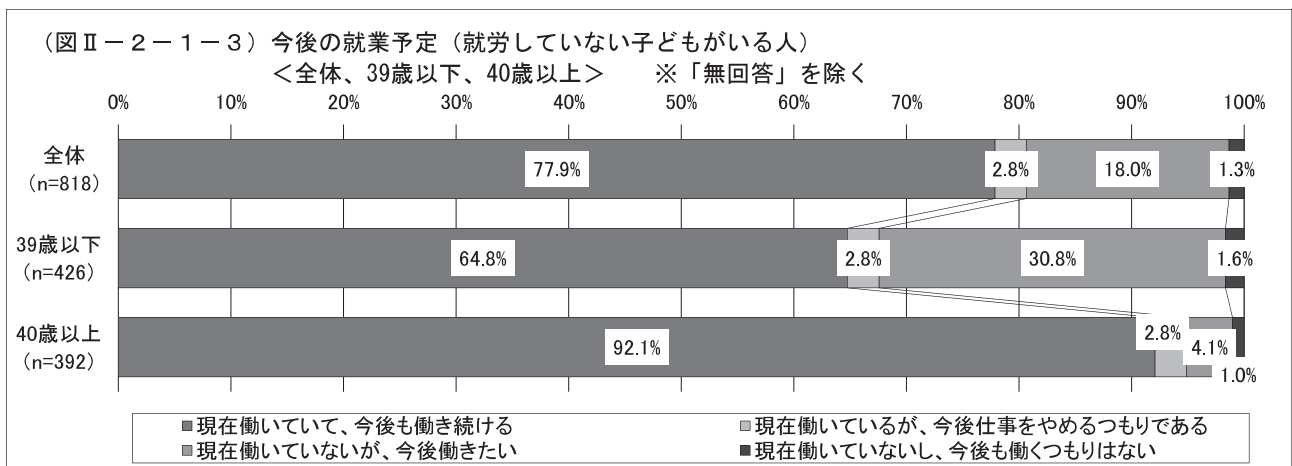
また、「現在働いていないが、今後働きたい」も含めた、働く希望を持つ人は、回答者全体で91.4%、39歳以下で92.8%、40歳以上で90.2%と、いずれの区分でも9割を超えている。



また、回答者のうち、「39歳以下」で「結婚している」人では、30.8%が「現在働いていない」が、その多くは「今後働きたい」（29.3%）と働く希望を持っていることが分かる。



「39歳以下」で「就労していない子どもを持つ」人では、30.8%が「現在働いていないが、今後働きたい」となっており、多くの人働く希望を持っている。

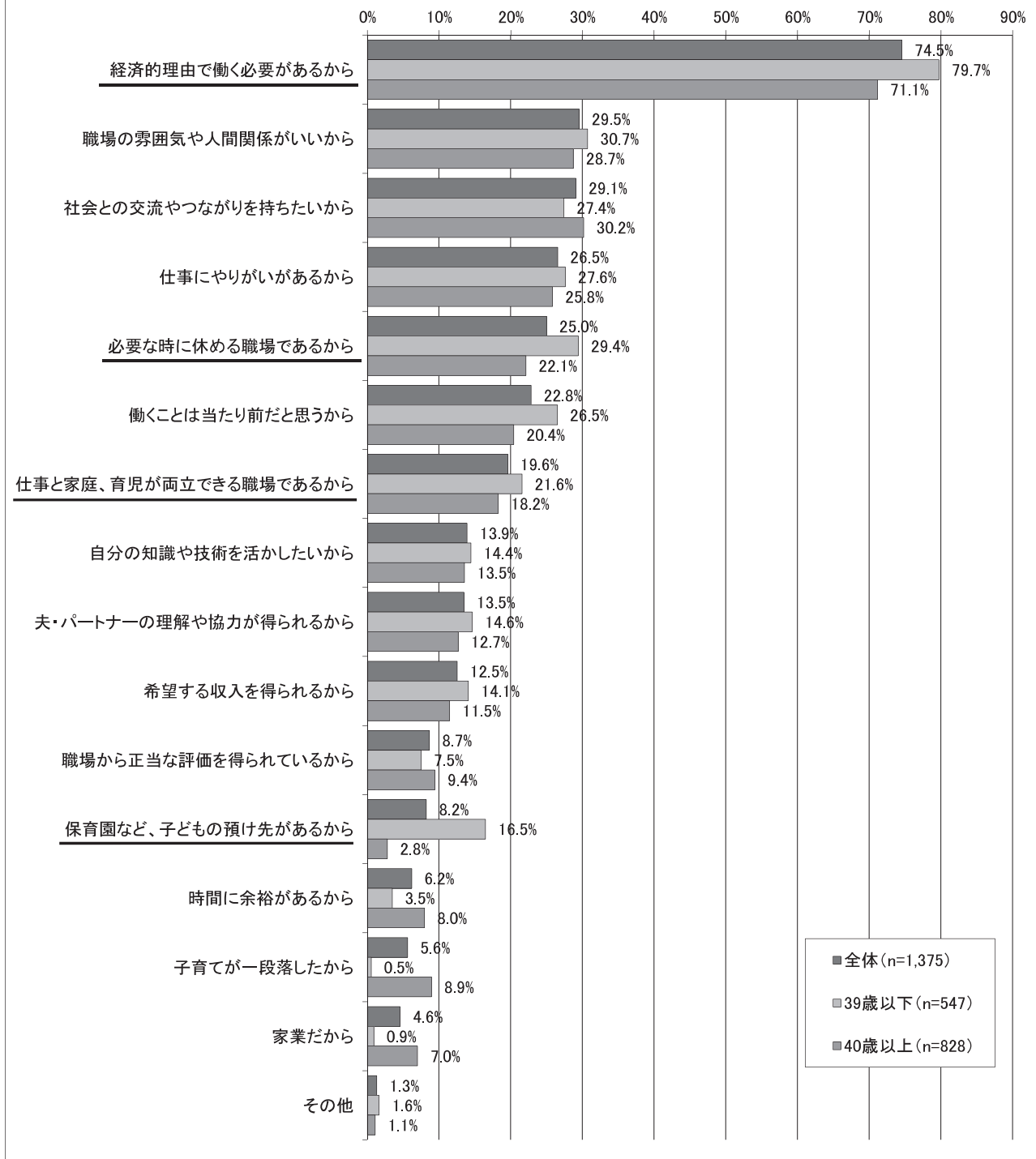


2-2 「現在働いていて、今後も働き続ける」理由

「経済的理由で働く必要があるから」が最も多く、回答者全体で74.5%、39歳以下で79.7%、40歳以上で71.1%となっている。

この他、39歳以下では、「必要な時に休める職場であるから」「仕事と家庭、育児の両立ができる職場であるから」「保育園など、子どもの預け先があるから」などが、40歳以上に比べて多くなっている。

(図Ⅱ-2-2) 「現在働いていて、今後も働き続ける」理由(複数回答)
 <全体、39歳以下、40歳以上>



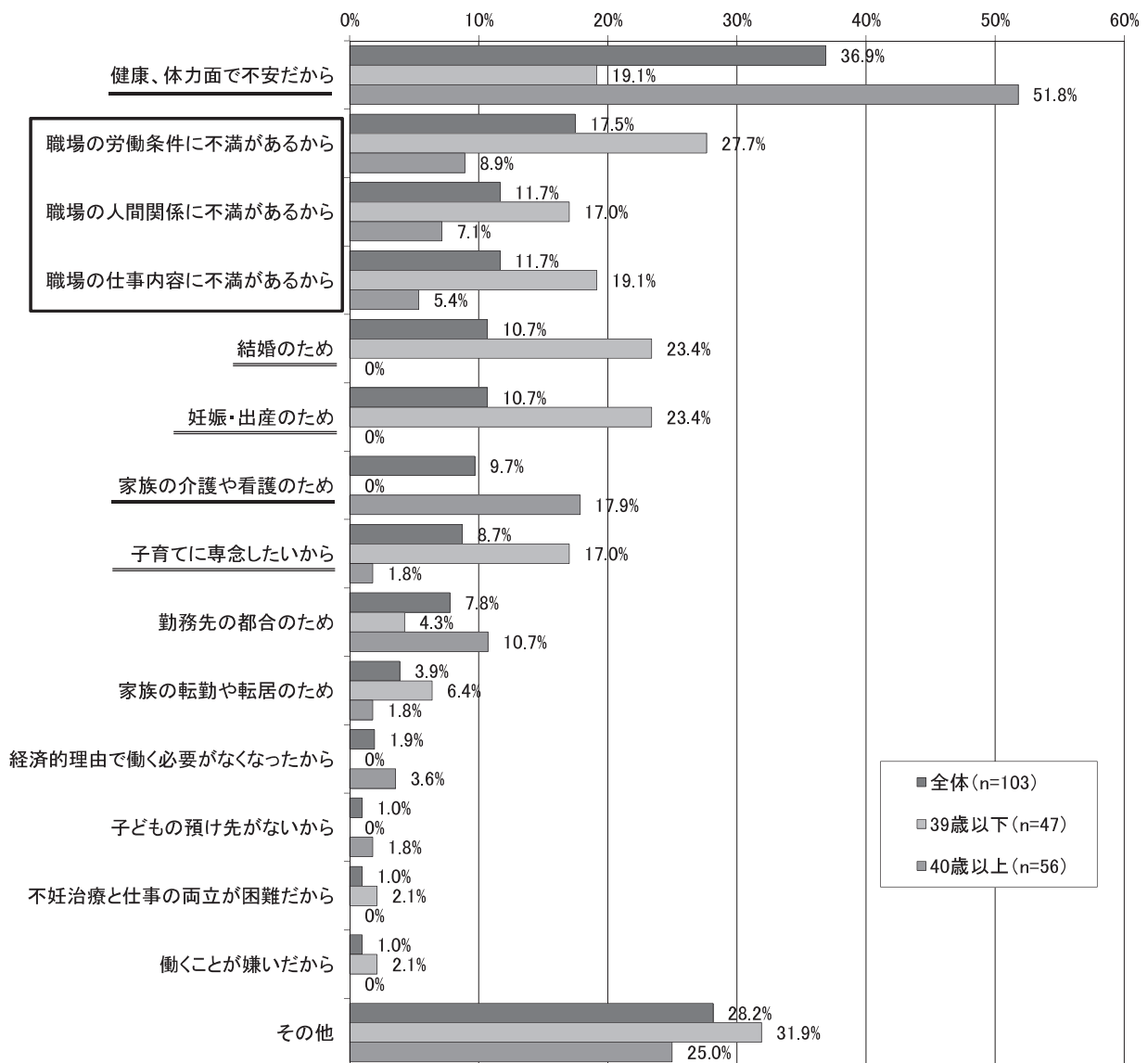
2-3 「現在働いているが、今後やめるつもりである」理由

40歳以上では「健康、体力面で不安」が最も多く、次いで「家族の介護や看護のため」が多くなっている。

39歳以下では「結婚のため」「妊娠・出産のため」「子育てに専念したいから」といった理由が多い。

職場の「労働条件」「人間関係」「仕事内容」への不満を理由としているのは、40歳以上に比べて39歳以下で多くなっている。

(図Ⅱ-2-3) 「現在働いているが、今後やめるつもりである」理由 (複数回答)
 <全体、39歳以下、40歳以上>



◇ 自由意見 (一部)

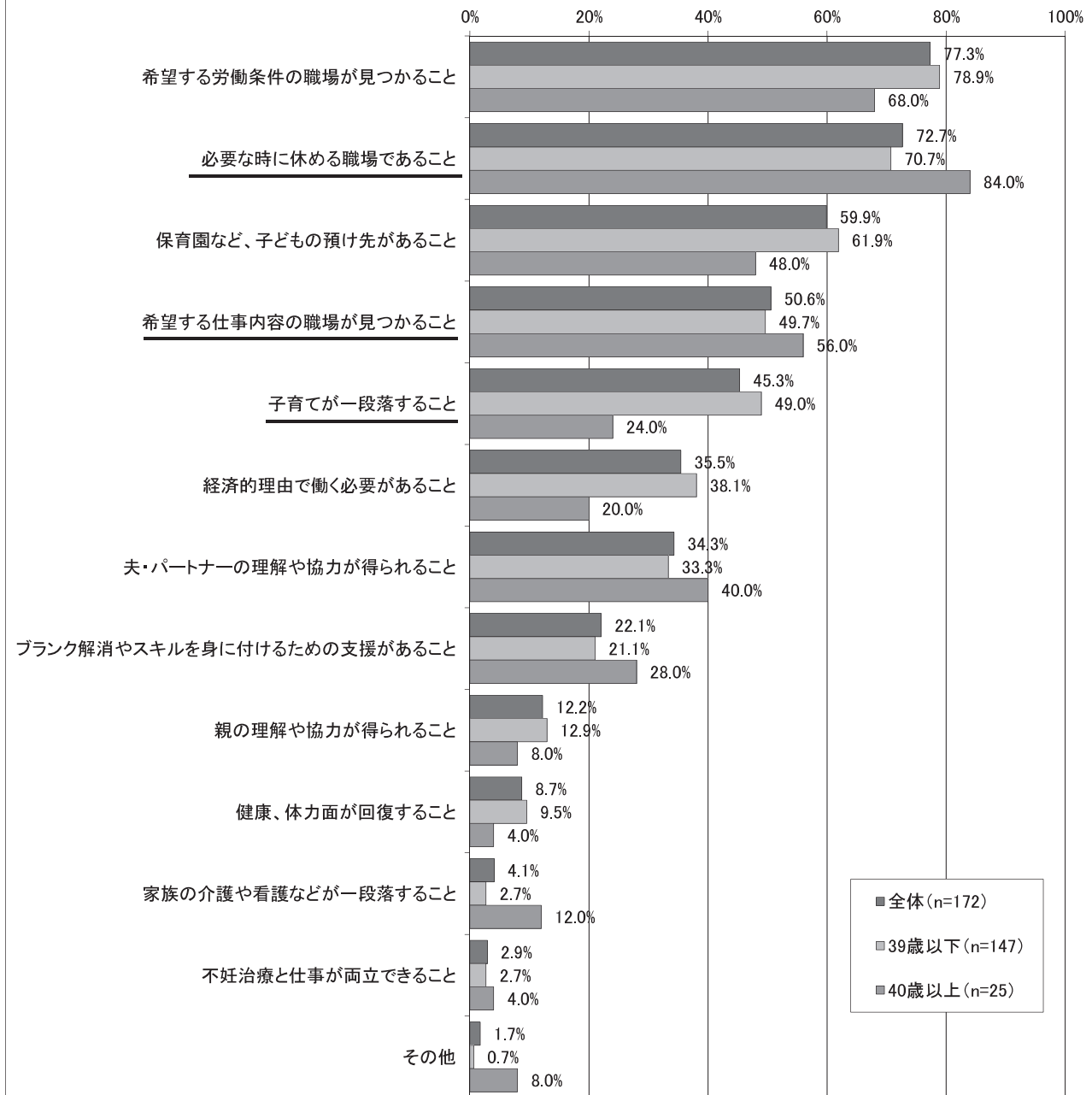
- ・ パートタイムからフルタイムに変更しようと思っている。
- ・ もっと収入のよい所に転職しようかと考えている。
- ・ 短時間勤務に対して理解がない。子どもの病気で休まないといけない時も、仕事が気になり看病できない。

2-4 今後働くための条件

「希望する労働条件」や「希望する仕事内容」のほか、「必要な時に休める」「保育園など、子どもの預け先がある」など、仕事と家庭・育児の両立ができることを働くための条件としている人が多い。

また、39歳以下では「子育てが一段落すること」も多い。

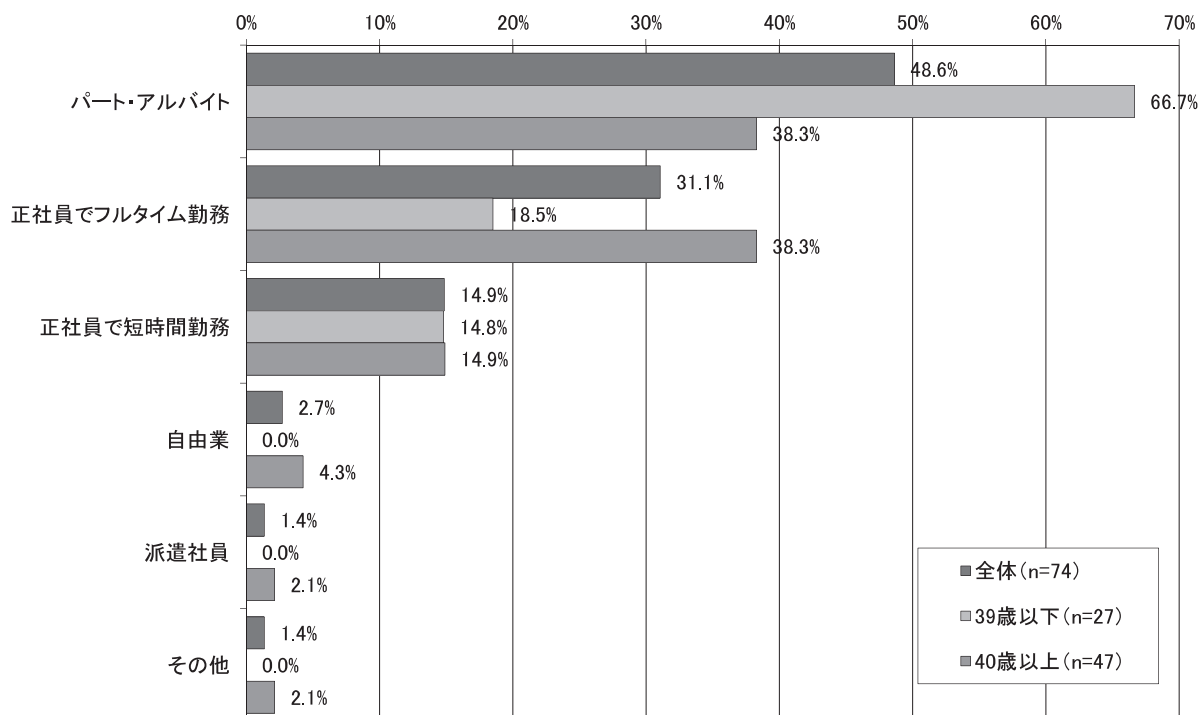
(図Ⅱ-2-4) 今後働くための条件 (複数回答) <全体、39歳以下、40歳以上>



2-5 現在働いていない人の働き方の希望

39歳以下では、「パート・アルバイト」(66.7%)が最も多くなっているが、40歳以上では、「パート・アルバイト」「正社員でフルタイム勤務」(38.3%)が最も多い。

(図Ⅱ-2-5) 働き方の希望(主なものを1つ選択) <全体、39歳以下、40歳以上>

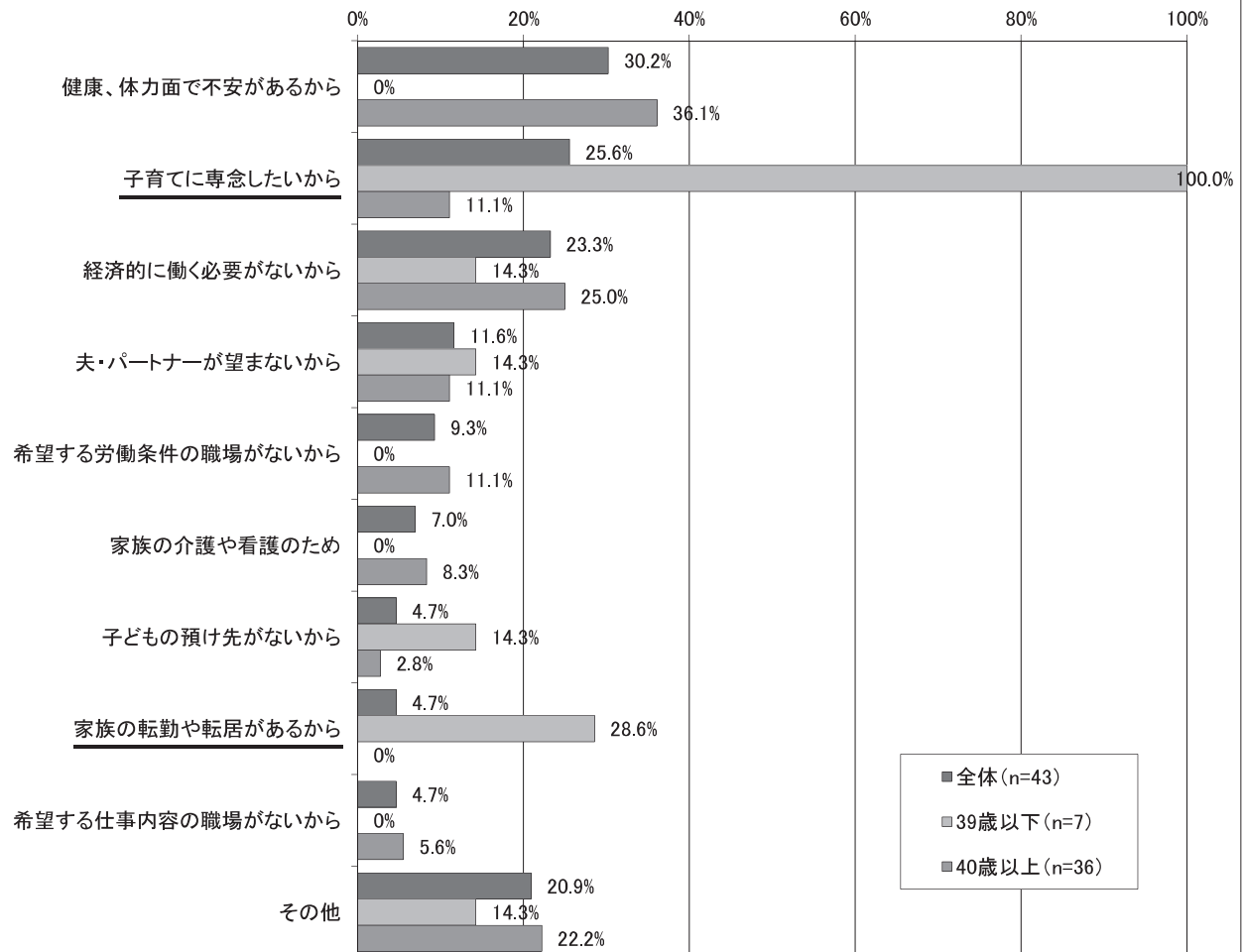


2-6 「現在も今後も働くつもりがない」理由

「現在も今後も働くつもりがない」人は人数としては多くないが、39歳以下では、全ての人が「子育てに専念したい」ことを理由としているほか、「家族の転勤や転居がある」ことを理由としている人も多い。

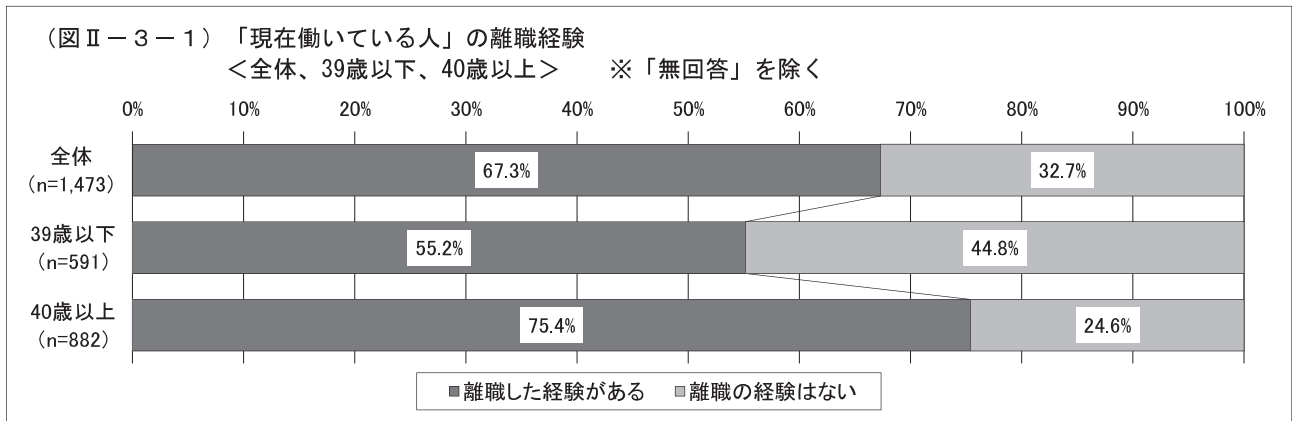
40歳以上では、「健康、体力面で不安がある」ことを理由としている人が多い。

(図Ⅱ-2-6) 「現在も今後も働くつもりがない」理由(複数回答)
 <全体、39歳以下、40歳以上>



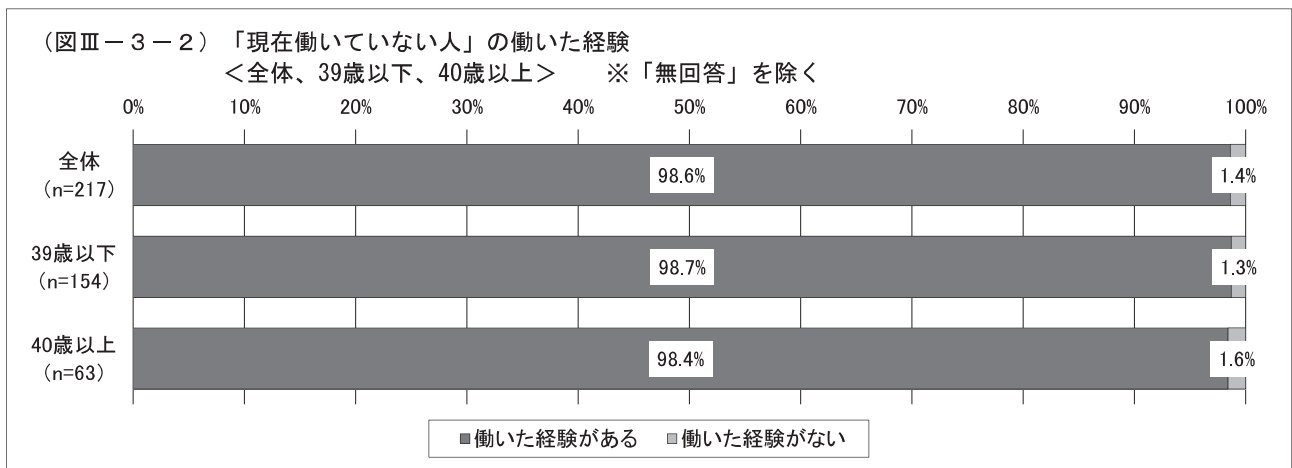
3-1 現在働いている人の離職経験

回答者全体で67.3%、39歳以下で55.2%、40歳以上で75.4%の人が「**離職した経験がある**」と回答している。



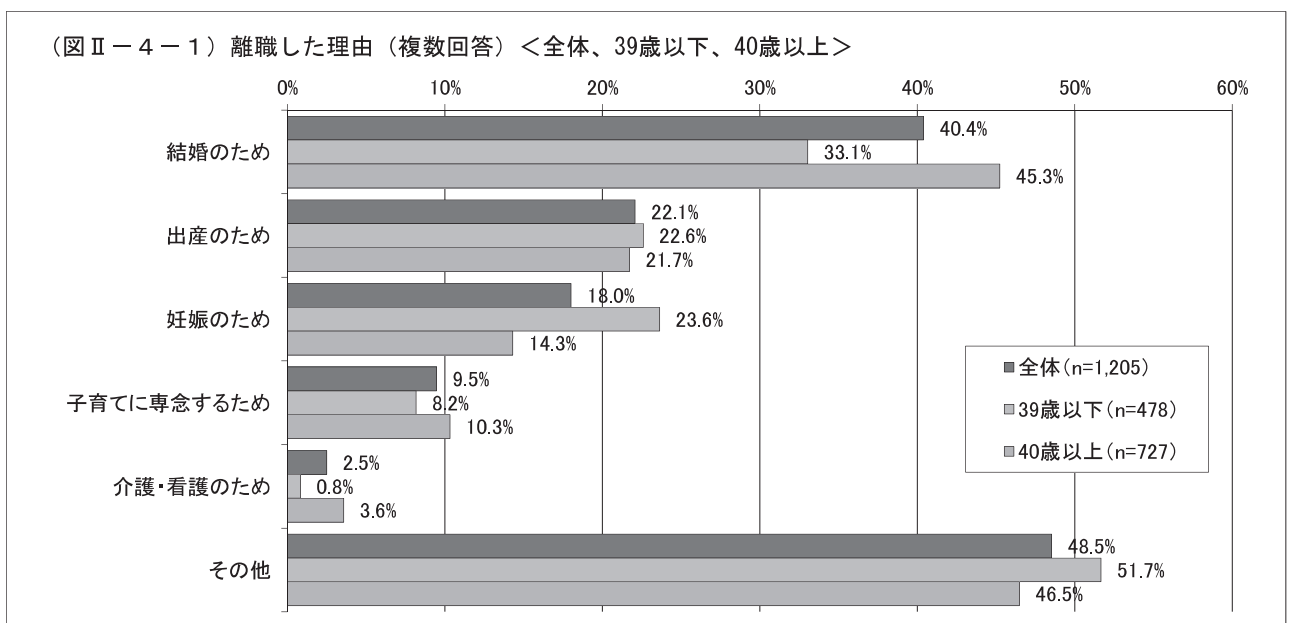
3-2 現在働いていない人の働いた経験

ほとんどの人が「**働いた経験がある**」と回答している。



4-1 離職した理由

「**その他**」以外では、いずれの区分でも「**結婚のため**」が、最も多くなっている。

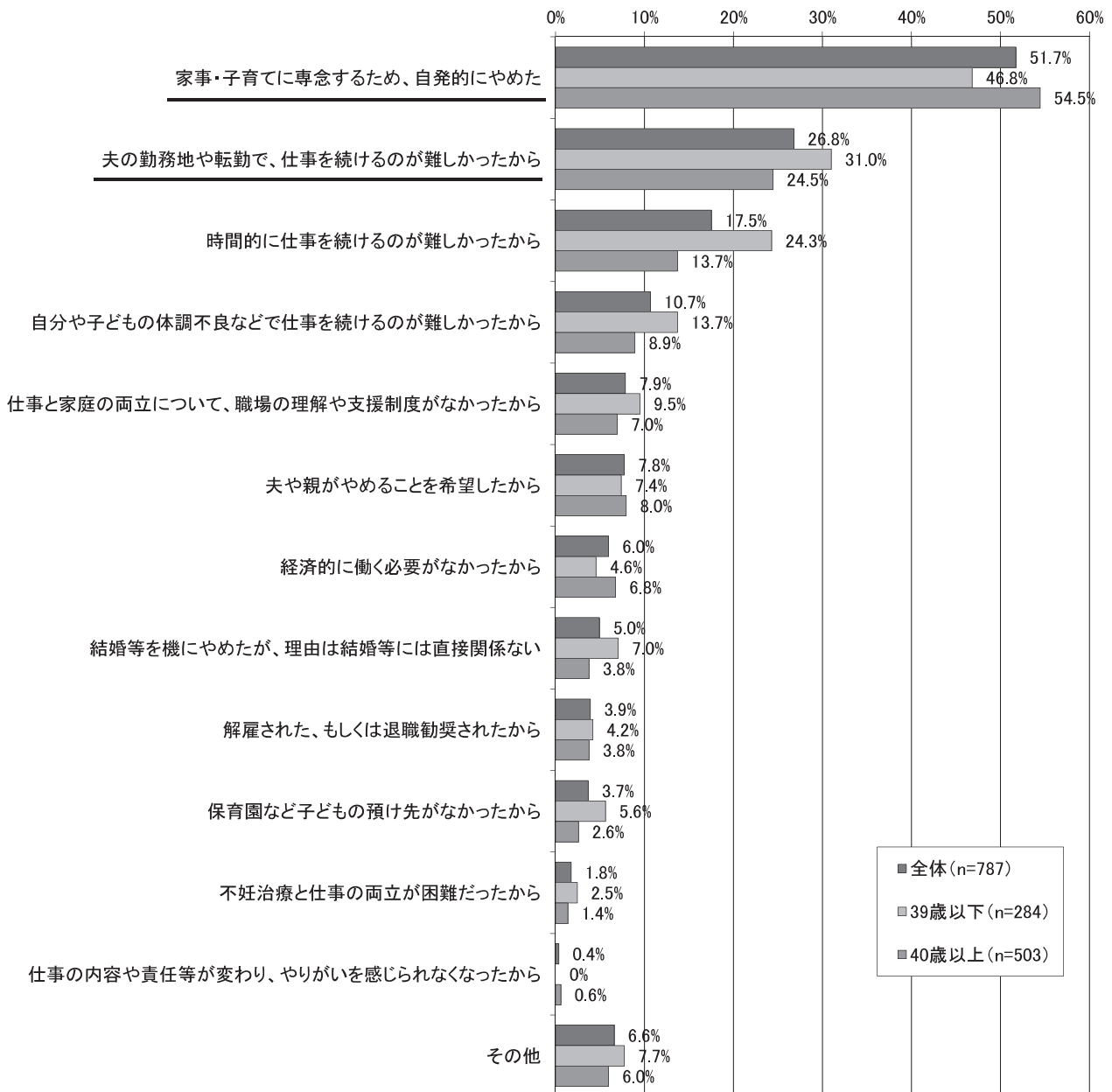


4-2 結婚、妊娠、出産、子育てのために退職した理由

「家事・子育てに専念するため」が最も多く、回答者全体で51.7%、39歳以下で46.8%、40歳以上で54.5%となっている。

次いで、「夫の勤務地や転勤のため」が多く、回答者全体で26.8%、39歳以下で31.0%、40歳以上で24.5%となっている。

(図Ⅱ-4-2) 結婚、妊娠、出産、子育てのために退職した理由 (複数回答)
 <全体、39歳以下、40歳以上>

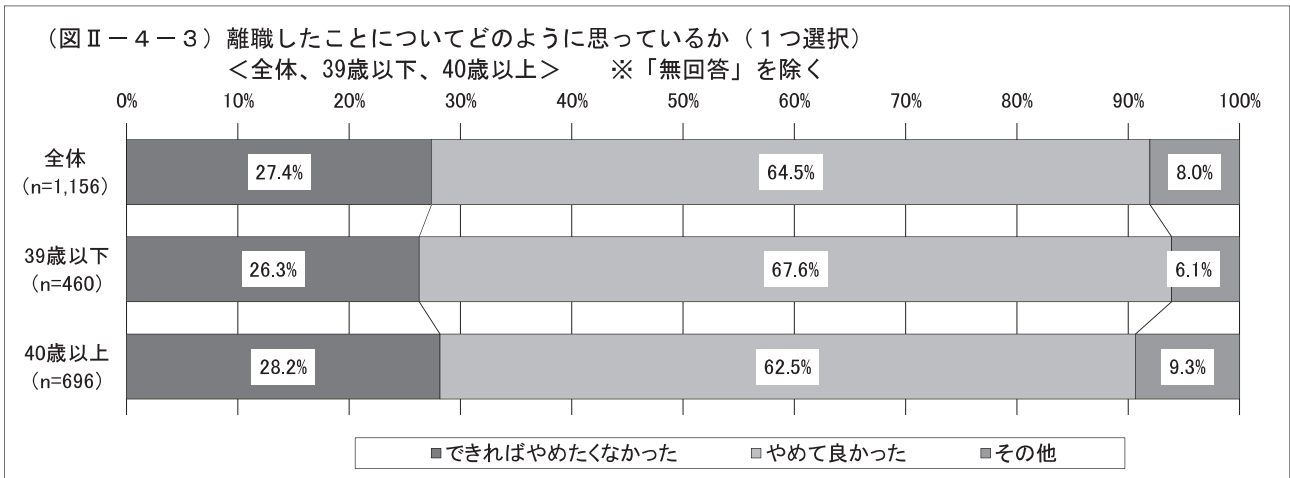


◇ 自由意見 (一部)

- ・ 夜勤のある仕事で、育休明けに両立できる自信がなかった。
- ・ 夫の転勤により遠方に引っ越すことになったため。
- ・ 当時働いていた職場は結婚を機にやめるのが慣例になっていたから。
- ・ 産休、育休を取ることができなかったため。

4-3 離職したことについてどのように思っているか

「やめて良かった」が最も多く、回答者全体で64.5%、39歳以下で67.6%、40歳以上で62.5%となっており、家事・子育てに専念できるなど、離職したことには納得していることがうかがえる。

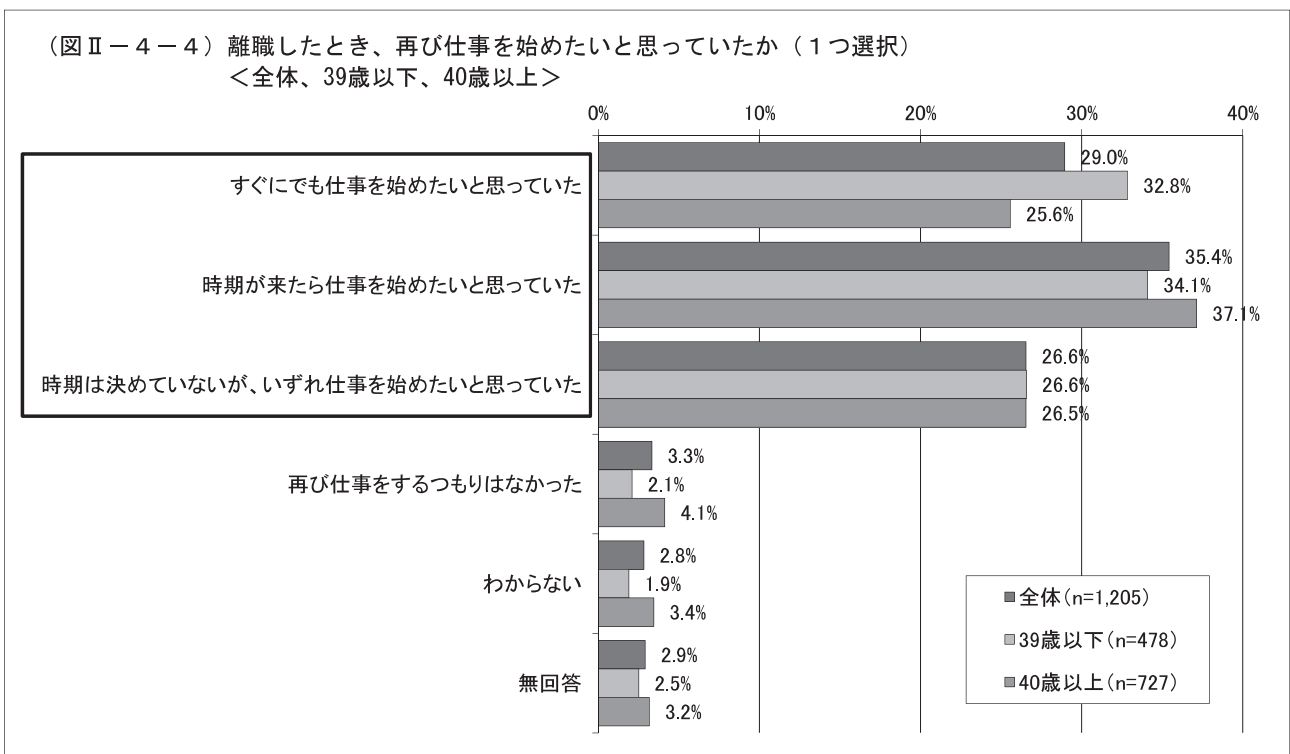


◇ 自由意見 (一部)

- ・ 短時間で働ける、家から近い、など条件が揃えば働き続けてもよかった。
- ・ 子育てに専念するため希望して離職したが、再就職を考えると離職せずに続けていた方が良かったのか答えが出せない。
- ・ 夫の転勤を考えるとやめるしかなかった。

4-4 離職したとき、再び仕事を始めたいと思っていたか

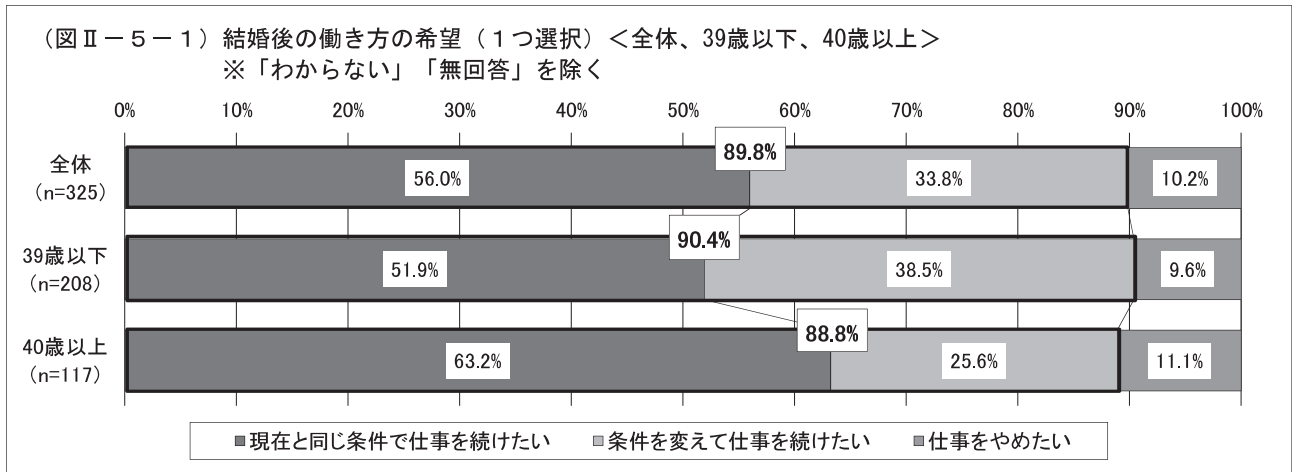
回答者全体で91.0%、39歳以下で93.5%、40歳以上で89.2%の人が再び仕事を始めることを希望している。



5-1 結婚後の働き方の希望

現在と同じ条件又は条件を変えて「仕事を続けたい」と希望している人は、回答者全体で89.8%、39歳以下で90.4%、40歳以上で88.8%となっている。

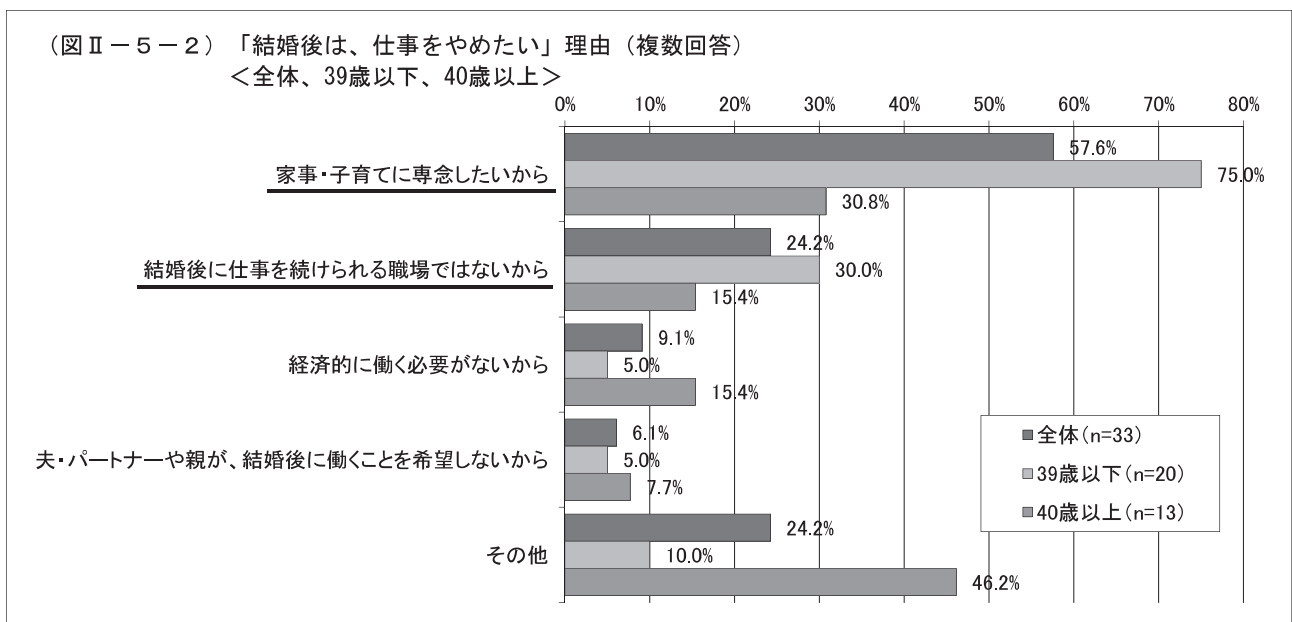
そのうち、勤務時間等の「条件を変えて仕事を続けたい」と希望している人は、回答者全体で33.8%、39歳以下で38.5%、40歳以上で25.6%となっている。



5-2 「結婚後は、仕事をやめたい」理由

「家事・子育てに専念したいから」が、回答者全体で57.6%、39歳以下で75.0%、40歳以上で30.8%と多くなっている。

また、「結婚後に仕事を続けられる職場でないから」が、回答者全体で24.2%、39歳以下で30.0%、40歳以上で15.4%となっており、仕事と家庭・育児の両立が困難であると考えていることがうかがえる。

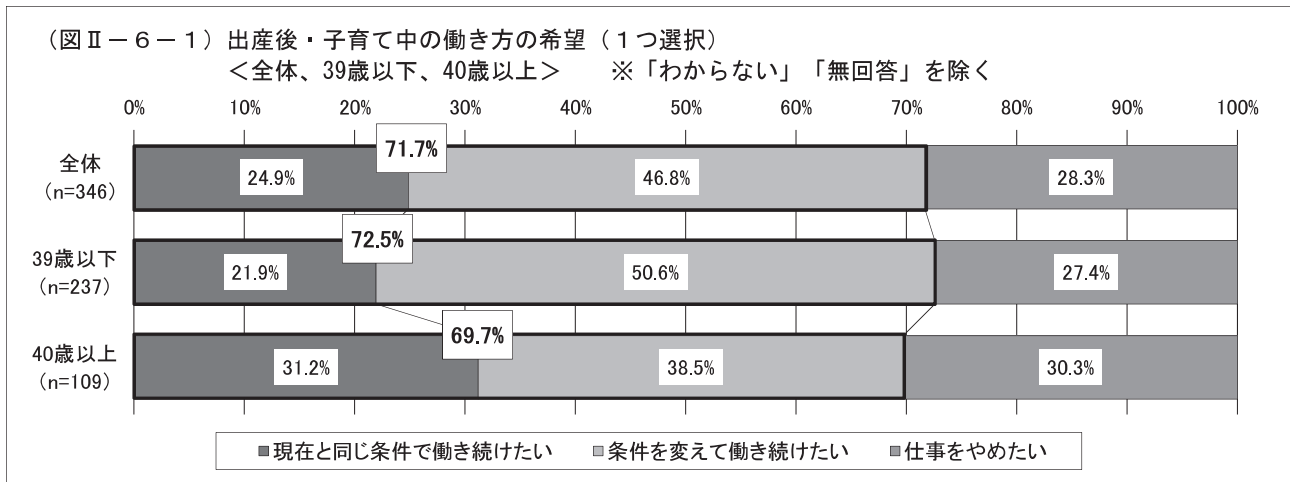


◇ 自由意見 (一部)

- ・ 家事・子育てを理由に、男性が休みを取得したり、男女分担して両方を担ったりすることを支援してくれる職場が少ない。
- ・ 子育てしながら仕事をするのは体力的にきつい。子育てが一段落してから働きたい。

6-1 出産後・子育て中の働き方の希望

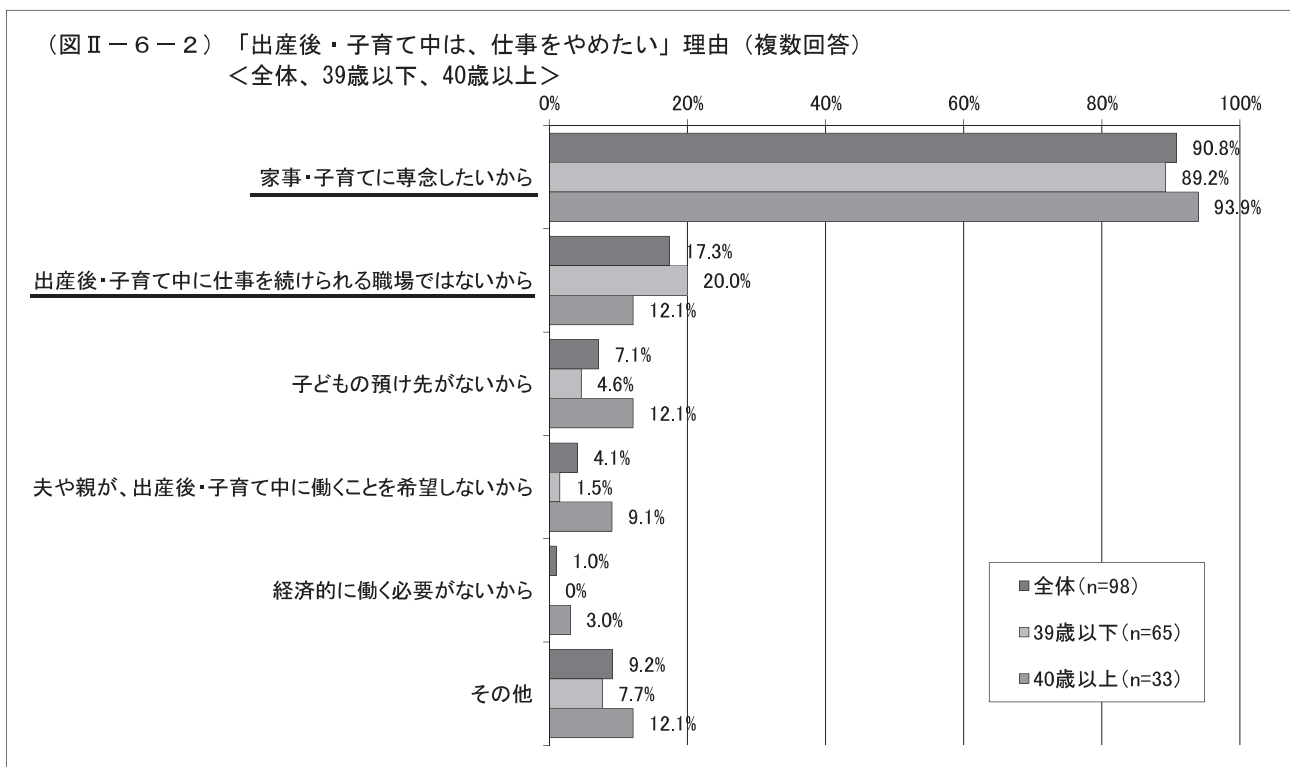
7割程度の方が働き続けたいと希望しているが、結婚後の働き方の希望と比べると、「仕事をやめたい」人が多くなっている。



6-2 「出産後・子育て中は、仕事をやめたい」理由

「家事・子育てに専念したいから」が最も多く、回答者全体で90.8%、39歳以下で89.2%、40歳以上で93.9%となっている。

また、「出産後・子育て中に仕事を続けられる職場でないから」も、回答者全体で17.3%、39歳以下で20.0%、40歳以上で12.1%となっており、結婚後と同様に、仕事と家庭・育児の両立が困難であると考えていることがうかがえる。



◇ 自由意見 (一部)

- ・ 男性が育児休暇などを取得することを「当たり前」に認められる職場が少ない。
- ・ 「仕事をやめたい」と思ってやめるわけではない。
- ・ 子供と一緒にいたいから。

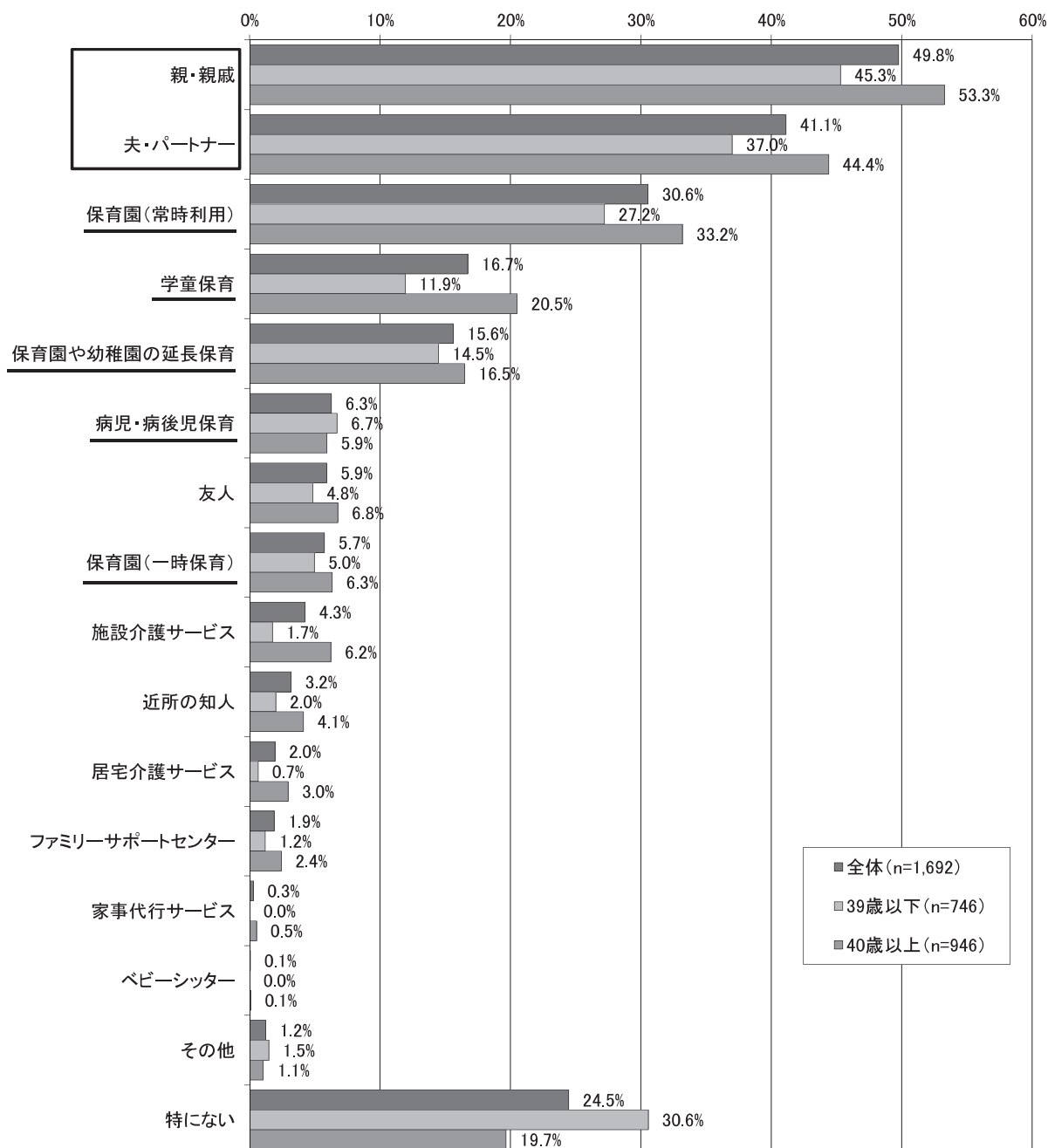
Ⅲ 就業等に関する相談・支援について

1 子育てや介護をしながら働く上での支援やサポート

「親・親戚」が最も多く、回答者全体で49.8%、39歳以下で45.3%、40歳以上で53.3%となっている。

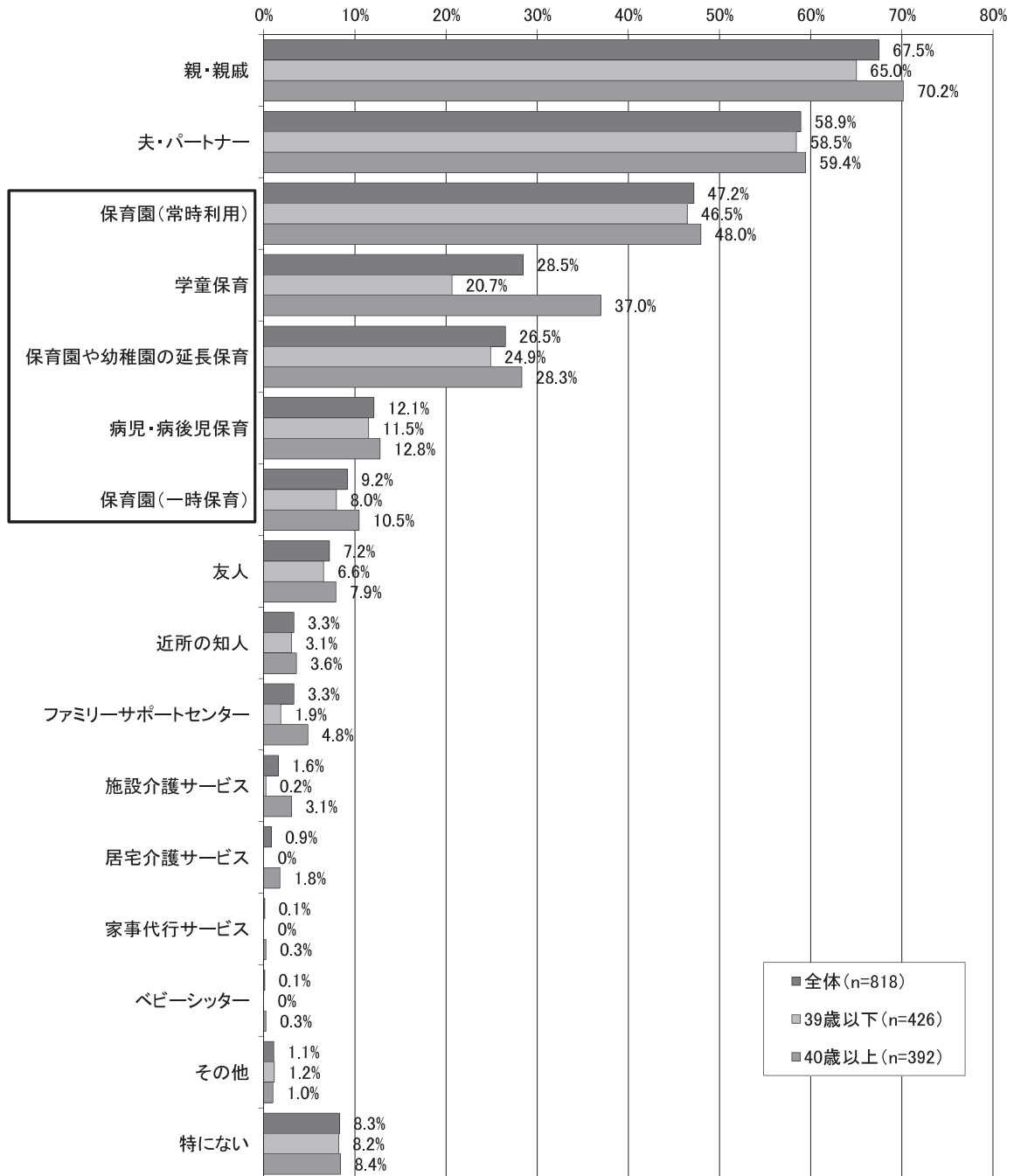
また、「保育園」や「学童保育」などの、保育関係の利用が多くなっている。

(図Ⅲ-1-1) 子育てや介護をしながら働く上での支援やサポート (複数回答)
 <全体、39歳以下、40歳以上>



また、回答者のうち、「就労していない子どもがいる」人でも、回答の傾向は回答者全体の傾向とほぼ同様ではあるが、保育関係の利用だけでなく、「親・親戚」「夫・パートナー」の支援を受ける人も多くなっている。

(図Ⅲ-1-2) 子育てや介護をしながら働く上での支援やサポート (複数回答)
(就労していない子どもがいる人) <全体、39歳以下、40歳以上>

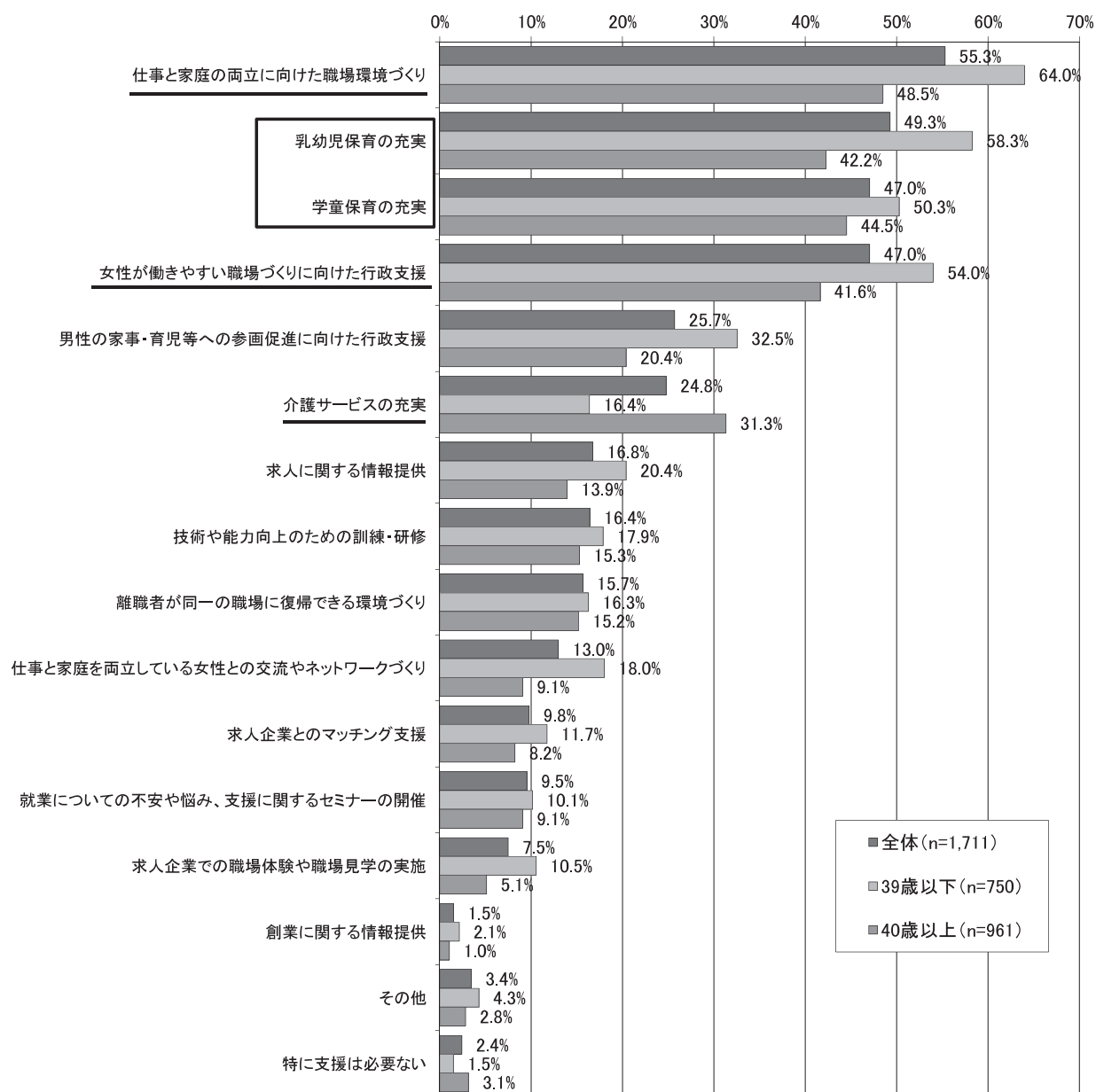


2 働く上で必要な支援

「仕事と家庭の両立に向けた職場環境づくり」や「女性が働きやすい職場環境づくりに向けた行政支援」といった両立支援へのニーズのほか、「乳幼児保育の充実」や「学童保育の充実」といった保育環境の充実に対するニーズが多くなっている。

また、40歳以上では、「介護サービスの充実」に対するニーズも多くなっている。

(図Ⅲ-2-1) 働く上で必要な支援（複数回答）＜全体、39歳以下、40歳以上＞

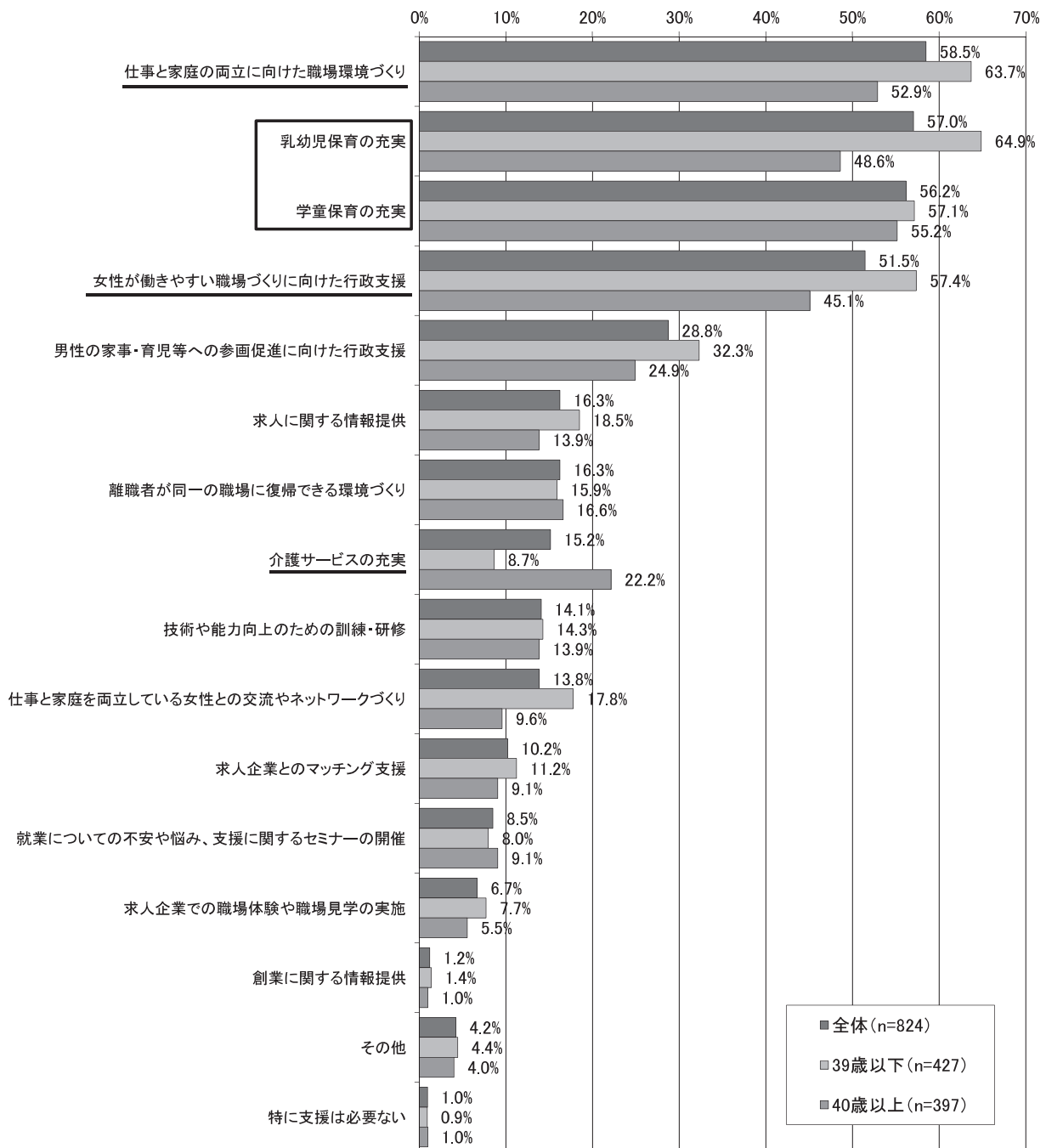


◇ 自由意見（一部）

- ・ リフレッシュ、休息の時間を持つための支援も必要。自分の時間が持てて、リフレッシュできると仕事、家庭のことがしっかりできる。
- ・ 男性でも女性でも、働きたい人は働けること。働きたい時に働けること。
- ・ 男性の意識改革（家事・育児は女性がやるものという固定観念の払拭）
- ・ 在宅でも仕事ができる環境

また、回答者のうち、「就労していない子どもがいる」人でも、回答の傾向は回答者全体の傾向とほぼ同様になっている。

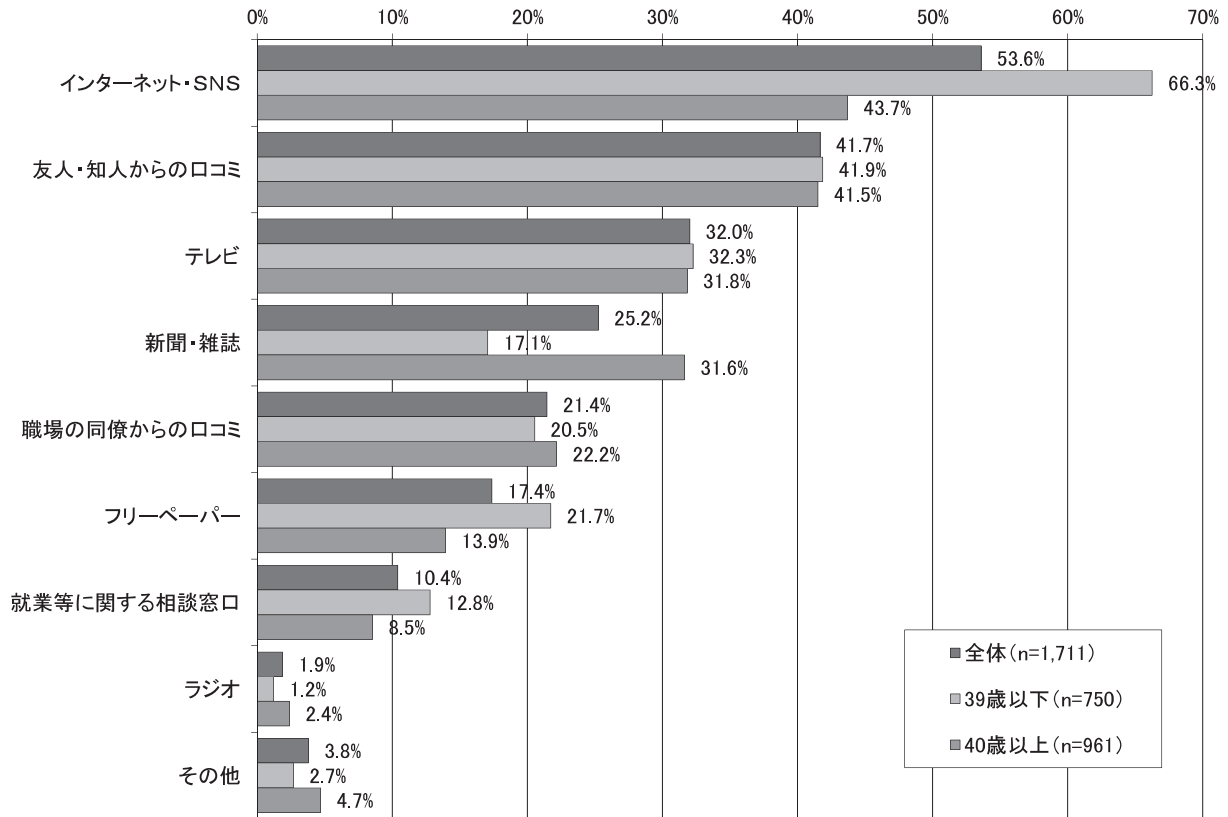
(図Ⅲ-2-2) 働く上で必要な支援(複数回答)
(就労していない子どもがいる人) <全体、39歳以下、40歳以上>



3 就業や子育て、介護支援に関する情報の入手方法

いずれの区分も、「インターネット・SNS」の利用による情報の入手のほか、「友人・知人からの口コミ」が多い。

(図Ⅲ-3) 就業や子育て、介護支援に関する情報の入手方法 (複数回答)
 <全体、39歳以下、40歳以上>

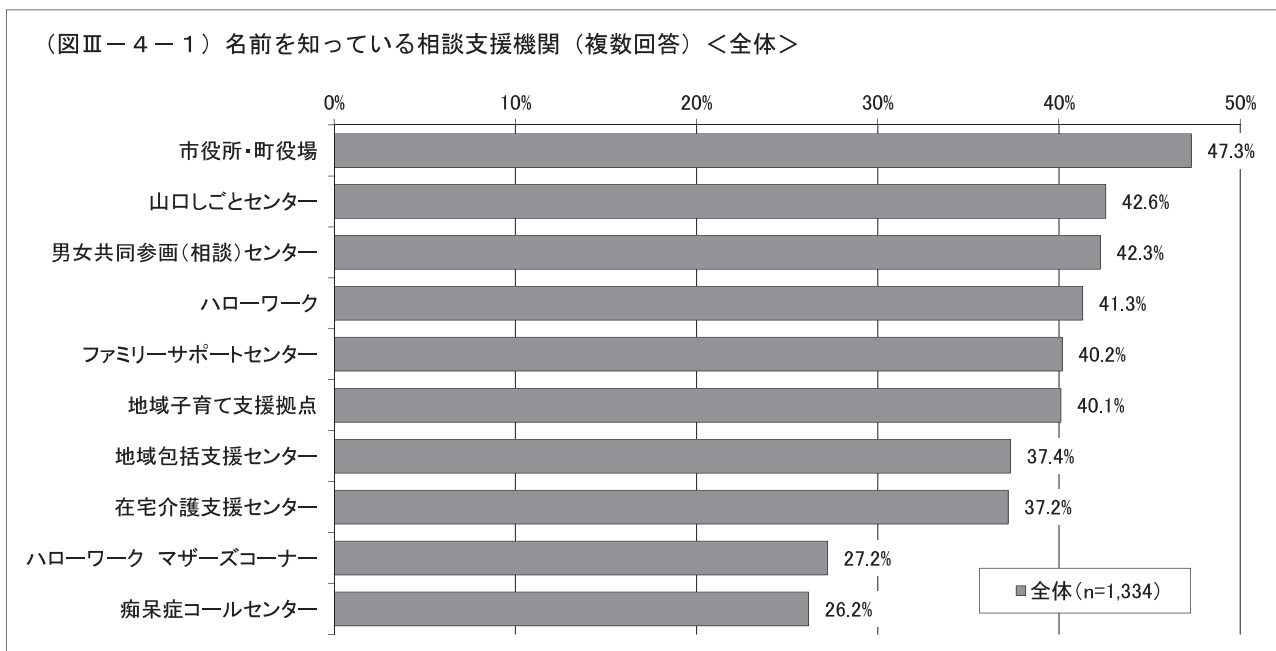


4 就業や子育て、介護に関する相談支援機関

① 名前を聞いたことがある

「市役所・町役場」(47.3%)が最も多く、「山口しごとセンター」「男女共同参画(相談)センター」「ハローワーク」「ファミリーサポートセンター」「地域子育て支援拠点」がいずれも4割程度となっている。

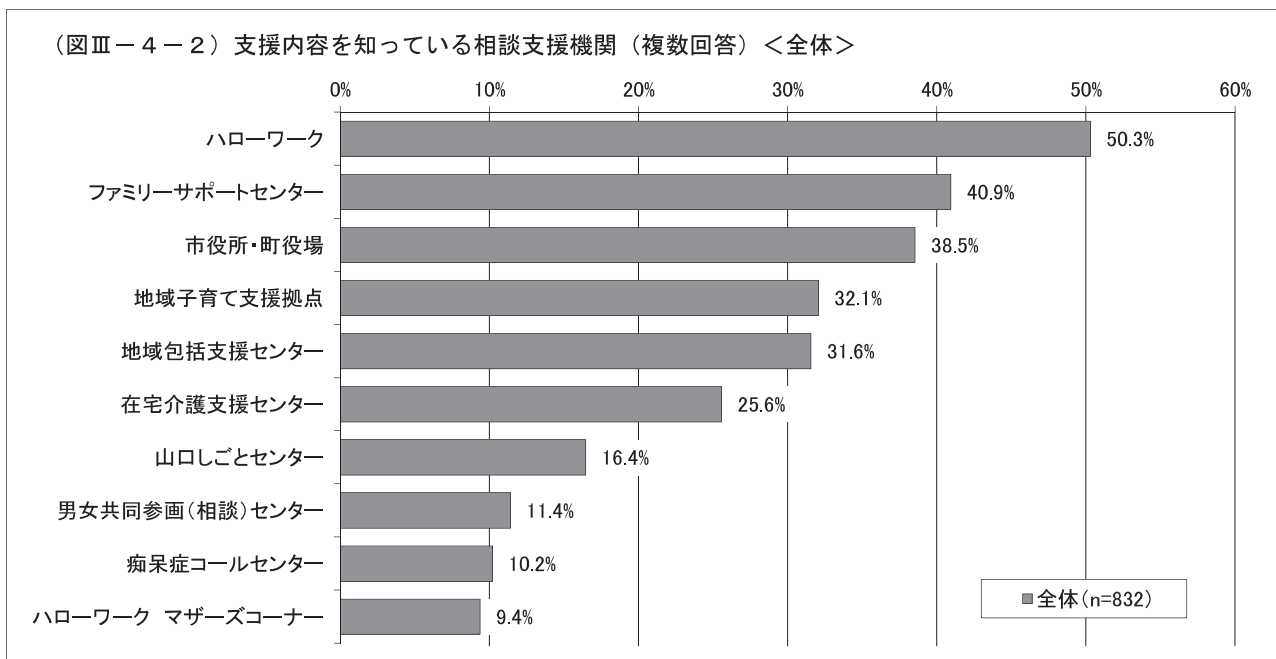
(図Ⅲ-4-1) 名前を知っている相談支援機関(複数回答)<全体>



② 支援内容を知っている

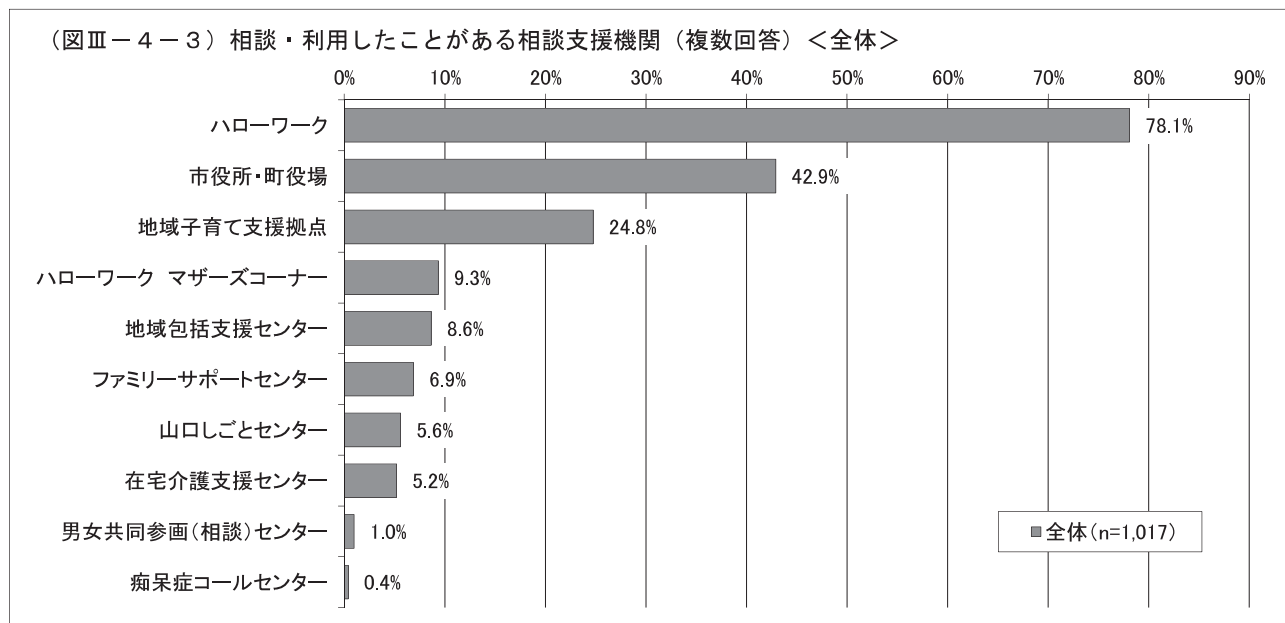
「ハローワーク」(50.3%)が最も多く、次いで、「ファミリーサポートセンター」(40.9%)となっている。

(図Ⅲ-4-2) 支援内容を知っている相談支援機関(複数回答)<全体>



③ 相談・利用したことがある

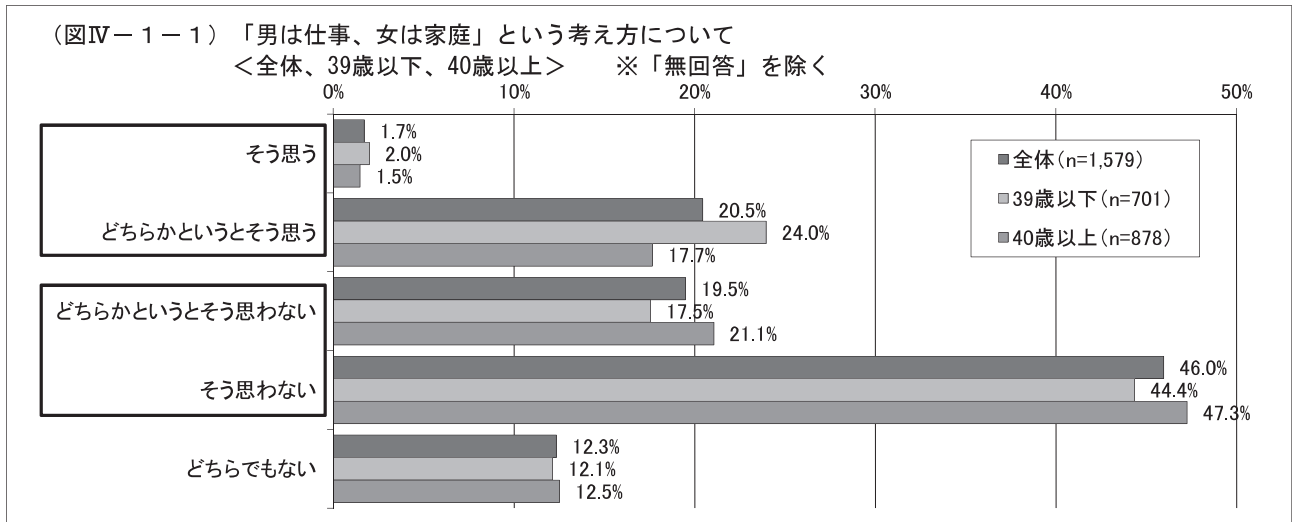
「ハローワーク」(78.1%)が最も多く、次いで、「市役所・町役場」(42.9%)となっている。



IV 男女の役割分担について

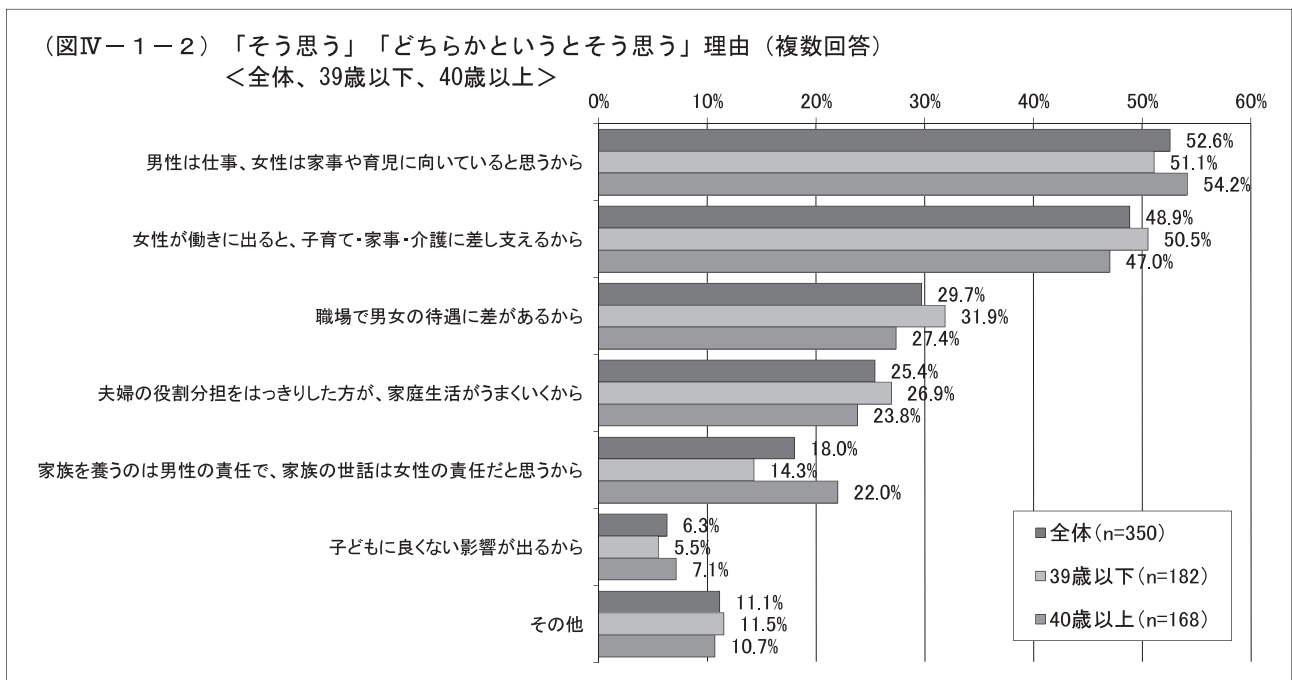
1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

世代による大きな違いは見られず、39歳以下、40歳以上ともに、「そう思わない」「どちらかというと思わない」が6割を超えている。



1-2 「そう思う」「どちらかというと思おう」理由

「男性は仕事、女性は家事や育児に向いていると思うから」が最も多く、回答者全体で52.6%、39歳以下で51.1%、40歳以上で54.2%となっており、次いで、「女性が働き出ると、子育て・家事・介護に差し支えるから」が多い。

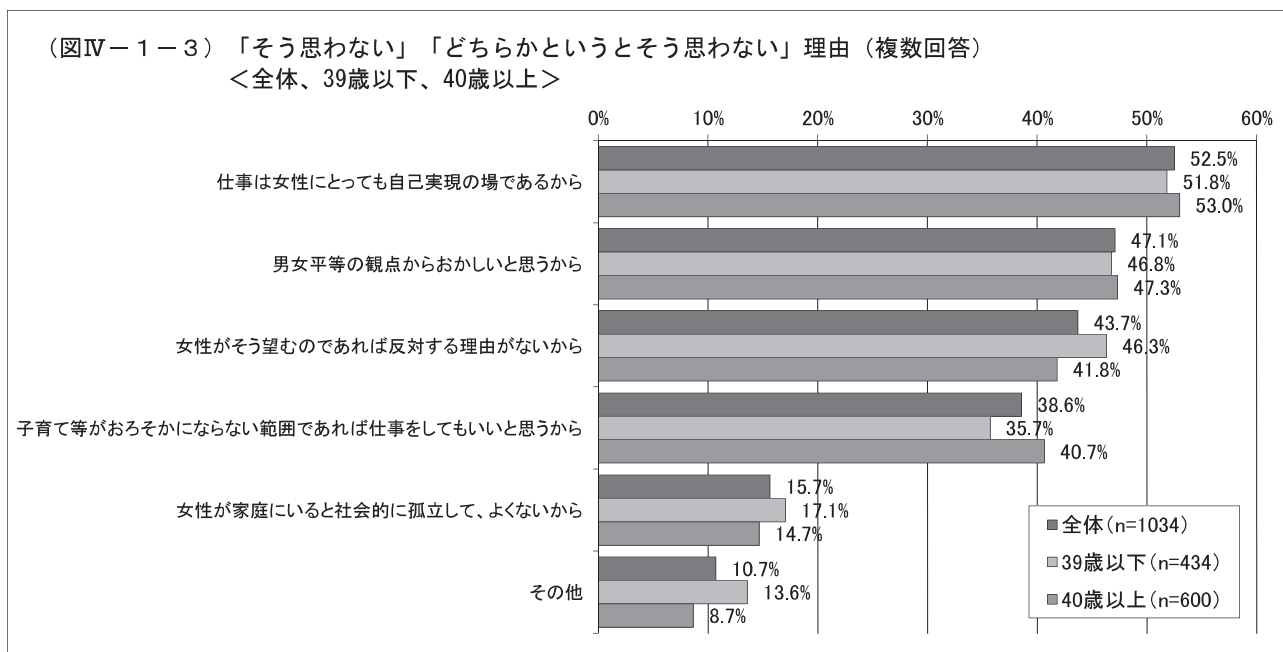


◇ 自由意見 (一部)

- ・ 働くのは良いが、出産や育児などで、どうしてもフルタイムで働けなくなる。
- ・ 夫の転勤や出産・子育てで、女性は離職することが多い。
- ・ 「男は仕事、女は家庭」は、経済的に余裕がある場合の理想と思っている。

1-3 「どちらかというと思わない」「そう思わない」理由

「仕事は女性にとっても自己実現の場であるから」が最も多く、回答者全体で52.5%、39歳以下で51.8%、40歳以上で53.0%となっており、次いで、「男女平等の観点からおかしいと思うから」が多い。



◇ 自由意見(一部)

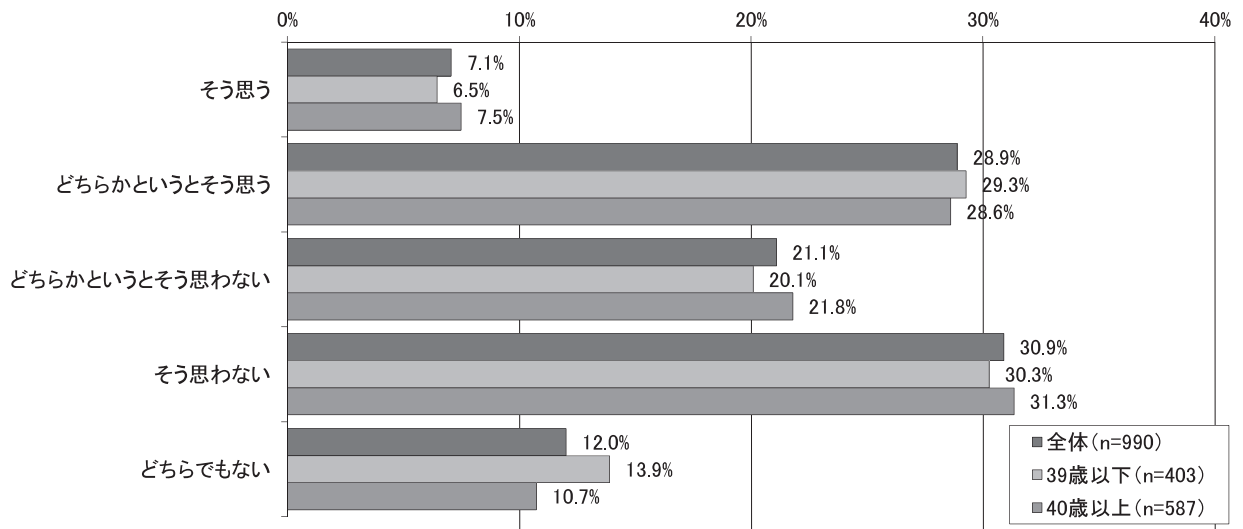
- ・ 男女関係なく、自由な役割分担をすればいい。それぞれを分担しても、別の方法でも良い。その自由が普通になる環境がいい。
- ・ 自分が結婚、出産、育児を実際に経験したことで初めてわかったことがたくさんある。色々な人の声を聞いて社会に知らせてほしい。
- ・ 支援があれば働ける人、理解があれば働ける人はたくさんいる。
- ・ お互いに仕事を持っていれば、女性だけが家事をするのではなく、男性も家事をして互いに助け合う必要がある。

2 (妻が感じている) 夫の「男は仕事、女は家庭」という考え方について

世代による大きな差は見られず、「そう思わない」「どちらかというと思わない」が5割を超えている。

一方、「そう思う」「どちらかというと思思う」は、女性自身の考えよりも多くなっている。

(図IV-2) (妻が感じている) 夫の「男は仕事、女は家庭」という考え方について
 <全体、39歳以下、40歳以上> ※「無回答」を除く

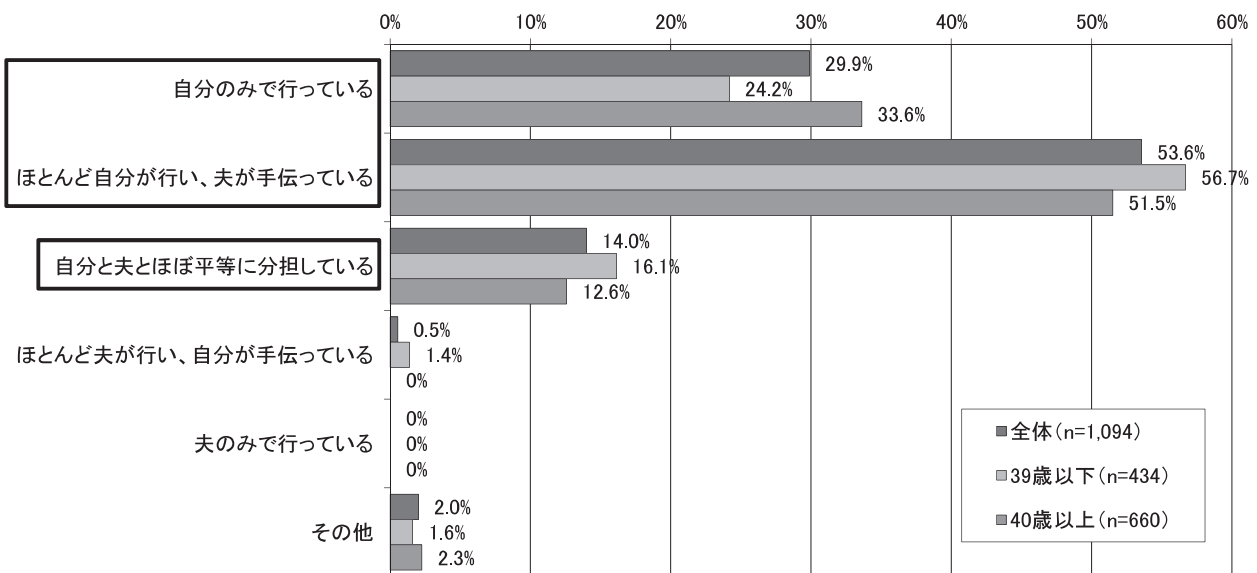


3 家庭における家事・育児・介護の分担の仕方

① 家事

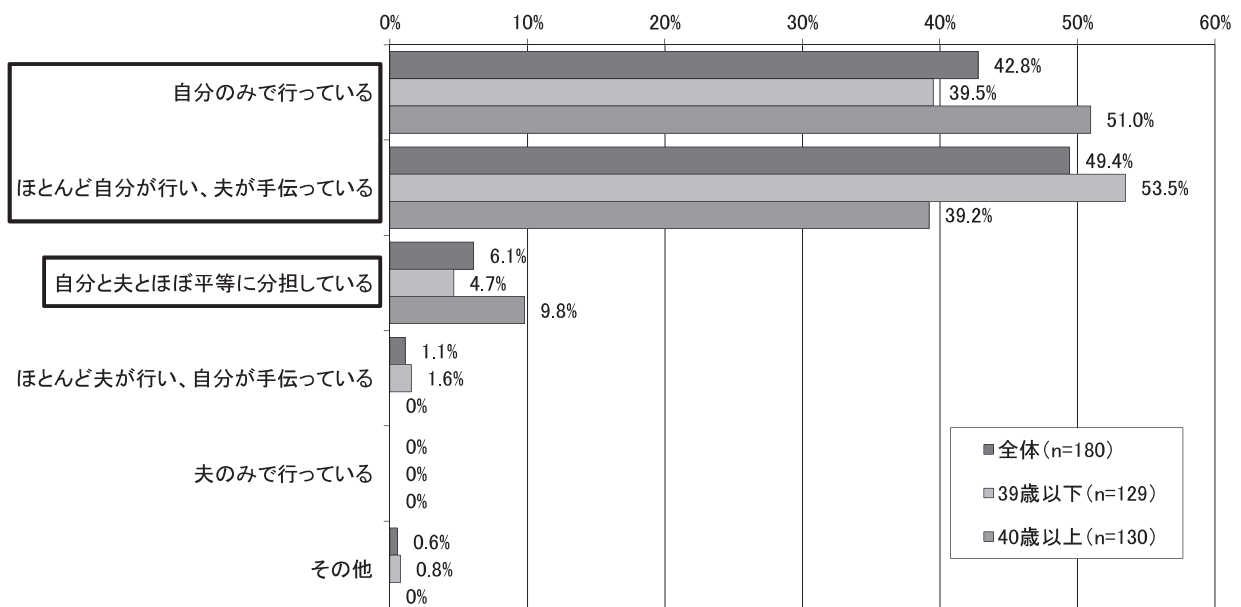
自分（妻）が主体（「自分のみ」「ほとんど自分」）で行っていると考えている人が8割を超えており、「夫とほぼ平等に分担している」と考えている人は2割に満たない。

(図IV-3-1-1) 家事の分担<全体、39歳以下、40歳以上>
※「該当なし」「無回答」を除く

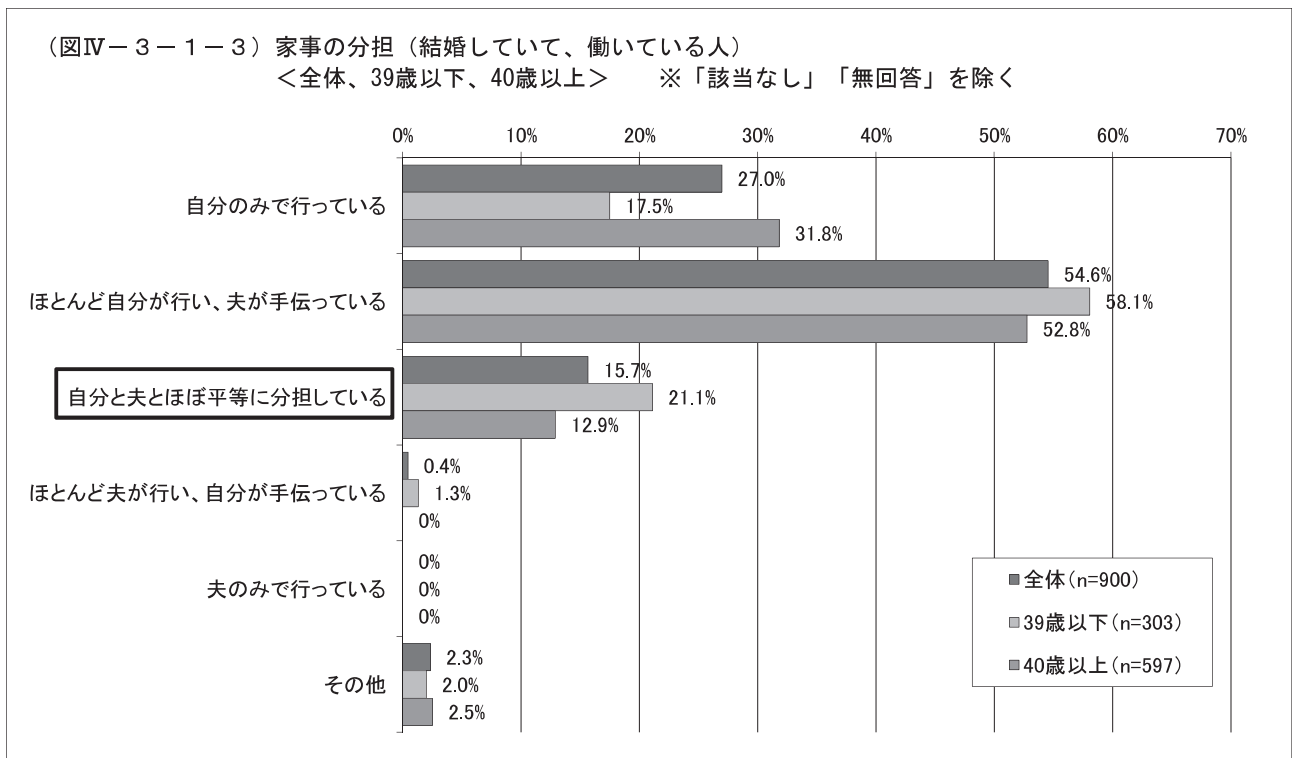


また、回答者のうち、「結婚していて、働いていない」人では、自分（妻）が主体（「自分のみ」「ほとんど自分」）で行っていると考えている人が9割程度であり、「夫とほぼ平等に分担している」と考えている人は1割に満たない。

(図IV-3-1-2) 家事の分担（結婚していて、働いていない人）
<全体、39歳以下、40歳以上> ※「該当なし」「無回答」除く

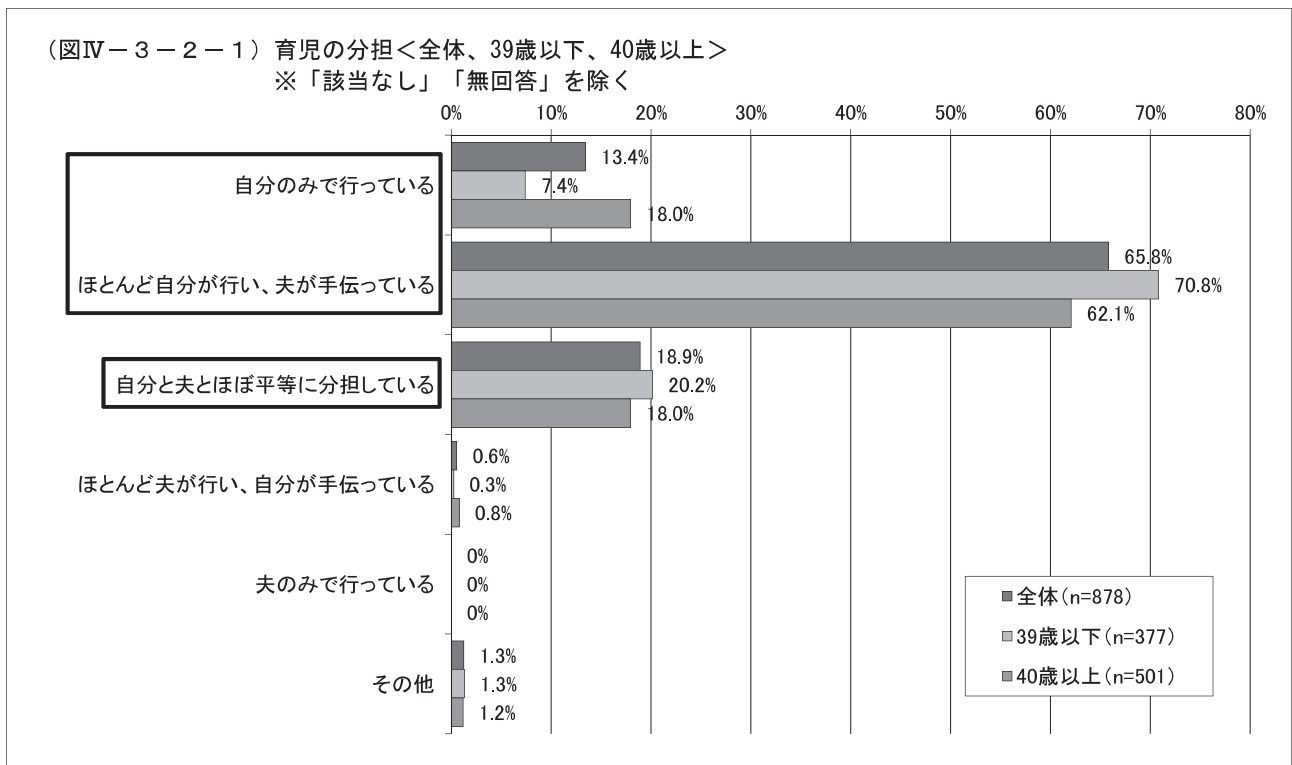


一方、回答者のうち、「結婚していて、働いている」人では、「ほぼ平等に分担している」と考えている人が、「働いていない」人に比べて多くなっている。

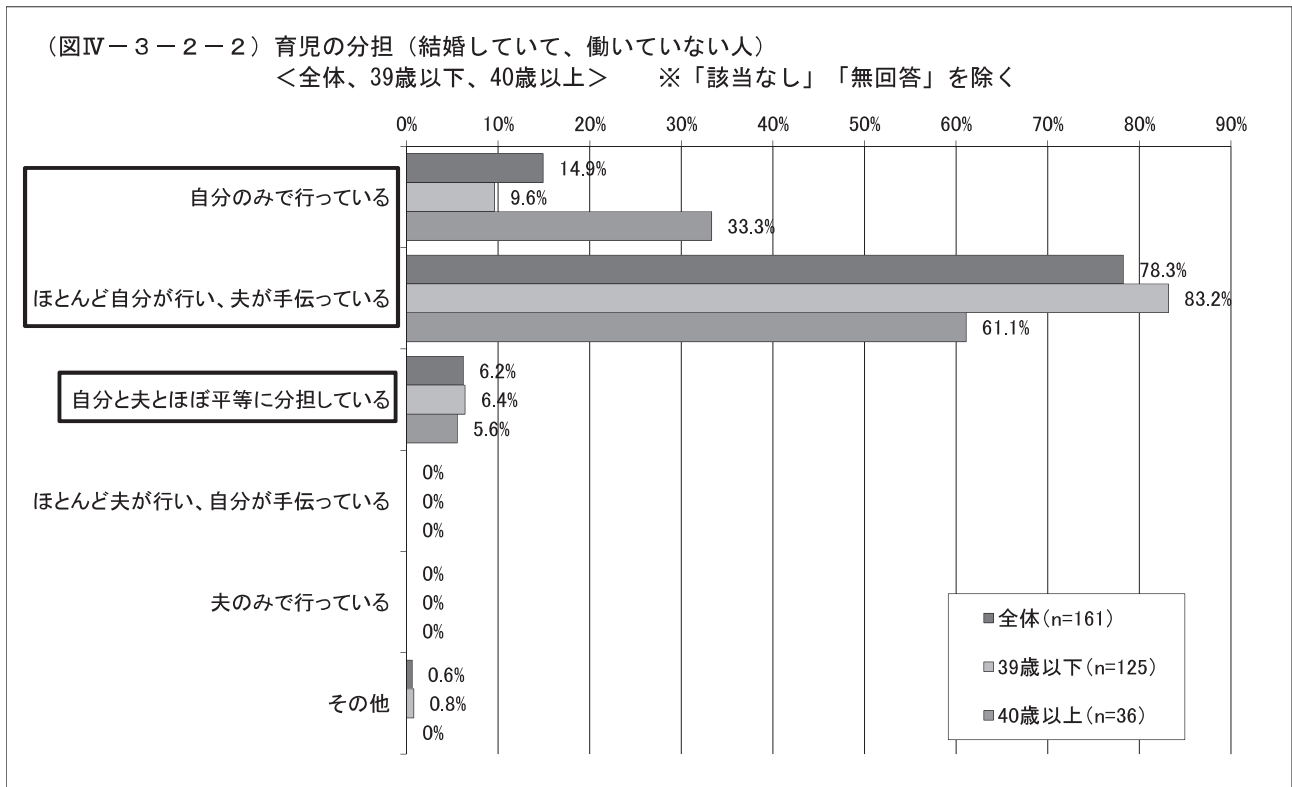


② 育児

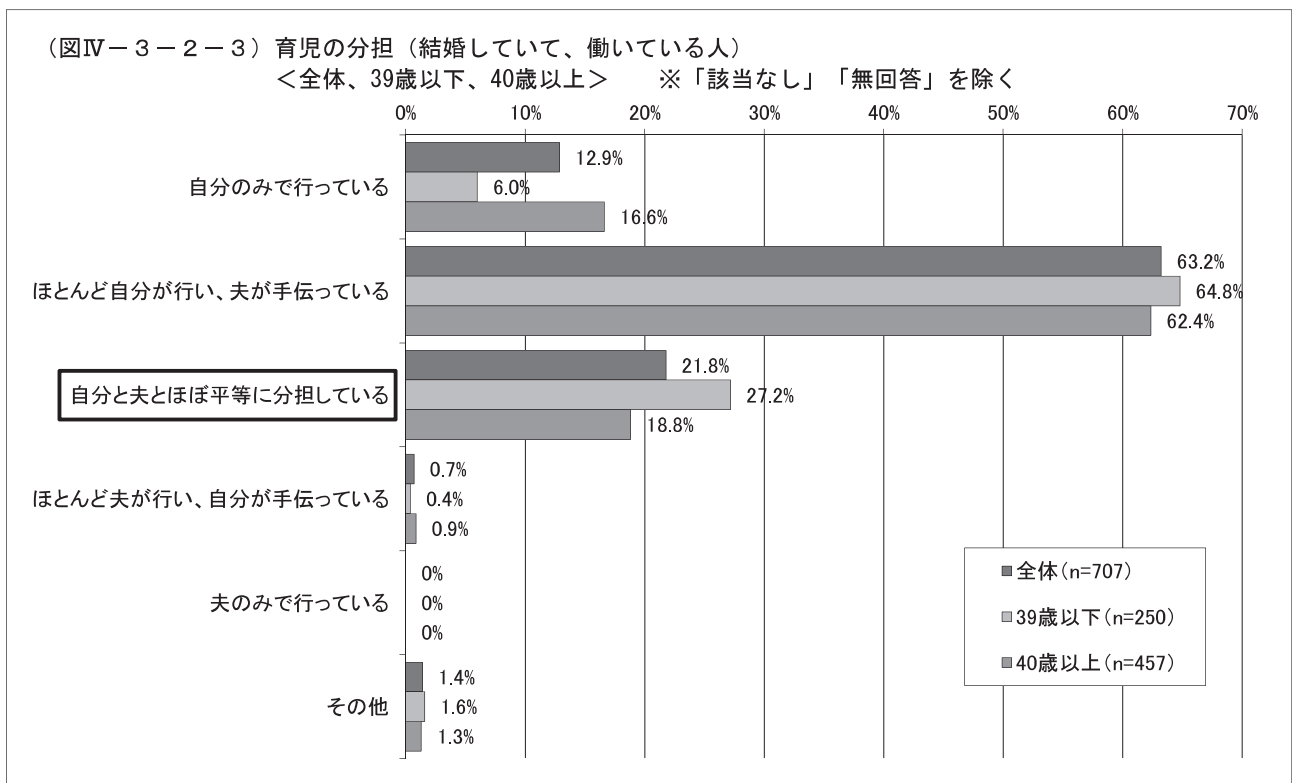
家事の分担と比べると「ほとんど自分が行い、夫が手伝っている」が多く、「自分のみ」は少なくなっており、夫の育児への参画は多少進んでいるが、「ほぼ平等に分担している」は2割程度となっている。



また、「結婚していて、働いていない」人では、家事の分担と同様に、「ほぼ平等に分担している」と考えている人が1割に満たない。



一方、「結婚していて、働いている」人でも、家事の分担と同様に、「ほぼ平等に分担している」と考えている人が、「働いていない」人に比べて多くなっている。



③ 介護

家事・育児に比べて、「自分のみ」「ほとんど自分」が少なくなっているが、「その他」として、「お互いの両親はお互いが見る」などの自由記入もあり、介護を必要とする人や程度などにより、分担の仕方を変えていることが分かる。

(図Ⅳ-3-3) 介護の分担<全体、39歳以下、40歳以上>
※「該当なし」「無回答」を除く

